

如学会の今年前半の主な行事は下記の通りです。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

## 2020 年度「建築都市デザイン学部」創設記念

### 淵上正幸氏 講演会 「現代世界建築を展望する」 Overview of Contemporary World Architecture

2020.06.06 [土] 16:15-17:45



●渋谷エクセルホテル東急  
「現代世界建築を展望する」  
20世紀に入って早20年が過ぎようという今日、中国の経済発展で牽引されて世界の建築家が多数中国に流入し、同国は建築デザインの増場と化した。これは世界の建築家の移動性に拍車をかけた。今回回国以外でデザインされた世界の話題建築をメインで紹介する。  
淵上正幸氏 (建築ジャーナリスト)



### 編集後記

新型コロナウイルスが猛威をふるっています。全世界で患者が10万人を超えたとの報道もありました。インフルエンザの方が脅威との医療関係者の意見もありますが、潜伏期間が1ヶ月と長く、クラスター状に拡散し、薬がないのも怖い討ちをかけています。無観客場所・試合、催事の中止・延期が続きます。アンビルド作品募集や特別審査員による「UNIQUE RECOMMENDATION」という新たな企画で臨んだ建築100人展・浅草展も中止となりました。企画自体は2020年12月(予定)に持ち越されます。OB・OGの皆様は奮ってご出席下さい。  
学位授与式に例年我々も参加させて頂きましたが、今年は卒業予定者と教職員のみで、父兄の参加も禁じられるという事態です。  
また、6月第1週の土曜日に渋谷エクセルホテル東急で如学会2020年度の定期総会を開催します。オンラインでも開催を危ぶまれていますが、コロナウイルスが収束していることを願うばかりです。建築ジャーナリストの淵上正幸氏に「現代世界建築を展望する」と題して講演して頂きます。是非、同窓会を兼ねて友人を誘って出席して下さい。よろしくお願ひ致します。  
丹羽 譲治

各事業の申し込み  
問い合わせ先  
総務局長  
小林秀憲  
E-mail  
jogakkai.info@jogakkai.jp

### 発行人

山岡 嘉彌

### 編集長

丹羽 譲治

### 情報委員長

露木 博視

### 編集顧問

松成 和夫

### 編集委員

酒井 孝博

勝又 英明

山口 裕照

鈴木 浩

### エディトリアルデザイン

山岡 嘉彌

### 制作

鈴木 浩

### 制作・印刷

株式会社 はやと企画

### 発行

東京都市大学建築学科如学会

東京都世田谷区玉堤 1-28-1

〒158-8557

### 発行日

2020年3月19日

### 定期総会・講演会・懇親会

2020.06.06 [土] 15:30-20:00

15:30	●定期総会 ●渋谷エクセルホテル東急
16:00	休憩
16:15	●講演会 講演者：淵上正幸氏 (建築ジャーナリスト)
17:45	休憩
18:00	●懇親会 ●渋谷エクセルホテル東急
20:00	

※詳細はメールマガジンで追ってお知らせします。HPもご覧下さい。

### 「建築+都市/100+100人展 2020」

2020.11.07 [土] - 11.08 [日] (予定)

### 大学展

10:00-18:00 入場無料

会場：建築学科1階グランドギャラリー

■建築と都市のOB、OGによる「100+100人展」及び、在校生の3研究会による研究発表、及び2年生課題発表などがあります。

2020.12.05 [土] - 12.13 [日] (予定)

### 浅草展

11:00-19:00 入場無料

会場：隅田公園リバーサイドギャラリー

12.05 [土] 18:00-20:00 オープニングパーティ

### 赤レンガ卒業設計展 2020

2020.03.20 [金] - 24 [火] 09:30-18:00

- 会場：寺田倉庫 G1 - 5F (東京都品川区東品川 2-4-6)
- 講評審査会
- ・日時：2020.3.24 [火] 13:00 - 18:00 (予定)
- ・会場：寺田倉庫 G1 - 5F
- ・審査員：比嘉武彦、彦根アンドレア、小堀哲夫、伊藤麻理、猪熊純、門脇耕三、近藤以久恵
- 参加大学  
東京都市大学、宇都宮大学、神奈川大学、共立女子大学、工学院大学、芝浦工業大学、首都大学東京、昭和女子大学、中央工学校、東京工業大学、東京電機大学、東京理科大学、日本大学、日本女子大学、法政大学、前橋工科大学、横浜国立大学
- 問い合わせ  
mail: akarenga2020@gmail.com TEL: 03-1234-5678

### 進路ガイダンス 2020

場所・東京都市大学 世田谷キャンパス

2020.06.17 [水] 13:00-17:00 (予定)

- 第1部 事業別仕事紹介  
会場：新6号館「61B教室」(予定)  
OB・OGの講師の方々から専門領域の概略をお話いただけます。
- 第2部 懇親会 17:00-19:00 (予定)  
会場：1号館4階「ラウンジ・オーク」(予定)  
立食形式の懇親会で、参加無料です。自由にご参加下さい。

2020.08.26 [水] 19:00-21:00 (予定)

- 「進路ガイダンス」準備会 [学生不参加]  
大学側から就職担当の責任者を交えて、就職状況の報告等の講演をいただき、企業のOB・OGとの意見交換会と懇親会を開催。

2020.10.28 [水] 13:00-19:00 (予定)

- 第1部 企業別仕事紹介 13:00-17:00 (予定)  
会場：建築学科棟1階「グランドギャラリー」  
OB・OGの方々直接与話をさせていただきます。
- 第2部 懇親会 17:00-19:00 (予定)  
会場：1号館4階「ラウンジ・オーク」(予定)  
立食形式の懇親会で、参加無料です。自由にご参加下さい。

### 会費・支援費納入のお願い

是非とも旧友、先輩、後輩にご連絡いただき、会費納入の促進にご協力いただけるようお願いいたします。そして、積極的に如学会活動にご参加下さい。仕事にキャリアにも多くのメリットがあります。会費・支援費のご納入いただいた方は、如学会NEWSに添付の納入者リストにご芳名を掲載させていただいております。

会費：3,000円(1年分) / 10,000円(4年分・割引料金)  
支援費：5,000円/一口

納入頂ける方は必ず「内訳」をご記入の上、振込頂くようお願い致します。如学会NEWSに同封の専用の振込用紙を用いない場合は下記口座をご利用ください。

郵便局 払込取扱票 No. 00160-0-174206 如学会

郵便振込以外の方法を紹介 (詳しくは如学会HP)

# 如学会 NEWS

jogakkai

# 2020春

東京都市大学  
建築学科同窓会誌



「広瀬謙二建築展 SH+ 第二回」レポート  
千代田生命本社ビルと街並み見学  
(現・目黒区総合庁舎)

浅井アーキテクトゥ作品見学会

三浦工務店本社+亀有香取神社

佐野プロジェクト・旧伊達医院改修計画

西那須野まちづくりプロジェクト

貝田の未来を考えるプロジェクト

「建築都市デザイン学部」創設記念

総会・講演会・懇親会のご案内

「建築+都市/100+100人展 2020」

〈大学展〉〈浅草展〉 出展及び参加のお誘い

如学会データベースと校友会オンライン

「女流フェイル」PART.21

卒業設計・卒業論文

修士設計・修士論文

蔵田賞・如学会賞

■ 世界は思いがけない疫病で大変な騒ぎとなっています。中国から端を発した新型コロナウイルスは、ひと昔前と異なり、交通手段の発達により、アジアばかりか、イラン、イタリア、英国など中近東から欧米までを案期間で巻き込み、世界中を震え上がらせる事態となりました。

この「如学会NEWS 春号」は、毎年学位授与式での配布を目標として、3月19日発行となっています。今年は、この学位授与式も異例の事態で、新型コロナウイルスの拡散を防ぐため、教員と学生のみを基準として最小限の参列者で行うことになりそうです。

■ 昨今の世界中の自然災害といい、今回の疫病の蔓延といい、現代文明社会の驕りに警鐘を鳴らされているようであり、コンピューター依存の先端科学に裏付けられた人間社会が、極めて脆く、人間の力の無力さを思い知らされる結果となりました。

日本人が誇りに思い、楽しみにしていた東京オリンピック、パラリンピックの開催も極めて厳しい局面が迫ってきました。1940年の東京オリンピックが謂わば人為的な第二次世界大戦で中止になりましたが、今この現代に、抑えることの出来ない疫病の蔓延で中止や延期になることは、何とか回避できないか、と忸怩たる思いで祈りつつ、なりゆきを見守っています。

## 山岡嘉彌

(S46 卒)

如学会会長



### 如学会の活動報告

■ さて、話を明るい方に戻すと、来たる2020年度から、建築学科は組織改革により、新たに工学部から「建築都市デザイン学部」の学科となります。都市工学科とのより一体化が図られ、如学会としても、2020年度は「建築都市デザイン学部 創設記念」として、数々のイベントを企画しております。

■ 2019年度の「100人展」は、「大学展」は浸水被害による大学祭の中止に伴ない展覧会も中止となり、このほど予定していた「浅草展」はコロナウイルスによる中止、新企画は翌年度に延期と惨憺たるものでしたが、捲土重来、次年度は「建築都市デザイン学部 創立記念」の「建築+都市/100人+100人展」を実施する企画で、都市工学科及びその同窓会組織である「緑土会」と協議を進めています。

■ また、建築学科棟の浸水被害に対し、多くの卒業生から義援金が寄せられ、165名から総額2,630,688円もの浄財が集まり、去る2月19日の「建築学科と如学会の連絡会」の席上で小見主任教授に贈呈させていただきました。大学被災に対し、卒業生達の多くの心配する声や励ましの言葉が寄せられ、あらためて、母校愛と同窓生同士の絆(きずな)を意識させられ、胸が熱くなる思いでした。この誌面にて、OB・OG諸氏にあらためて感謝の意を表したいと思います。(同封の「会費・支援費・義援金納入者リスト」をご参照ください)



建築学科への義援金の授与



「建築学科と如学会の連絡会」

### ■ 浸水被害と今後の水害対策について

前号でお知らせした通り、昨年の台風19号により甚大な被害を受けた世田谷キャンパスは、(本稿の執筆時点で)4か月ほどが経過し、本格的な復旧と今後の防災対策への歩みを進めているところです。建築学科棟では、1階製図室の空調機器が壊れたままとなりましたが、今年度末までにはようやく交換できる見通しとなりました。1階実験室はその中身が解体撤去されたままの状態となっているところもあり、次年度以降、徐々に復旧していくことになると思われます。今後の防災対策として、本学科が現在関わっているものの一つは、勝又先生を中心とした「世田谷キャンパス浸水対策WG」で、まずは今年の台風シーズン、さらにはその先を見据えた段階的な浸水対策を図るべく、様々な角度から検討を進めています。もう一つは、本学科と都市工学科、都市生活学科から集まった教員らによる「内水氾濫被害アンケート調査WG」(下図参照)で、キャンパス周辺の多摩川沿いの地区を対象とした近隣住民へのアンケート調査を行っています。これらの成果により、キャンパスの強靱化と周辺住民への防災機能提供が近い将来に実を結ぶことを願ってやみません。

## 小見康夫

建築学科主任教授



### 建築学科の近況

#### ■ 大橋好光先生ご退職

長らく建築構法・木質構造のご指導にあられた大橋好光教授が、今年度で定年退職されることとなりました。大橋先生は、本学で多くの学生の指導にあられ、また木造の専門家として様々な研究、学協会等での社会貢献に従事されました。長い間ありがとうございました。今後とも建築学科をよろしくご指導お願いいたします。

#### ■ 義援金の御礼

2月13日に行われた「如学会と建築学科教室の連絡会」において、義援金を頂戴しました。皆様のお心遣いには心より感謝申し上げます。学科のために有意義に使わせて頂き、その用途については、後日ご報告させて頂く所存です。本当にありがとうございます。

#### ■ 新年度に向けて

来年度より発足する建築都市デザイン学部の初代学部長には、建築学科の勝又先生が就任されることとなりました。引き続きご支援の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。



近隣住民へのアンケート調査

## topics

# 千代田生命本社ビル (現・目黒区総合庁舎) と街並見学

2019年11月12日

## 「日生劇場」に続く村野藤吾作品見学



千代田生命本社ビル (現・目黒区総合庁舎)

昭和59年11月26日午後8時32分、心筋梗塞のため兵庫県宝塚市の自宅にて建築家・村野藤吾は永眠された。享年93歳6か月だった。生まれは明治24年(1891年)。その日の夕方まで事務所で仕事をし、その帰途宝塚ホテルでスギ夫人と食事して帰宅、ちょっと気分が悪いとベッドに入りそのまま逝かれた。『村野藤吾著作集全一巻』鹿島出版会より)まさしく生涯現役主義を貫いた人だった。“ぴんぴんころり”の理想的な生き方をみせられたような気がする。

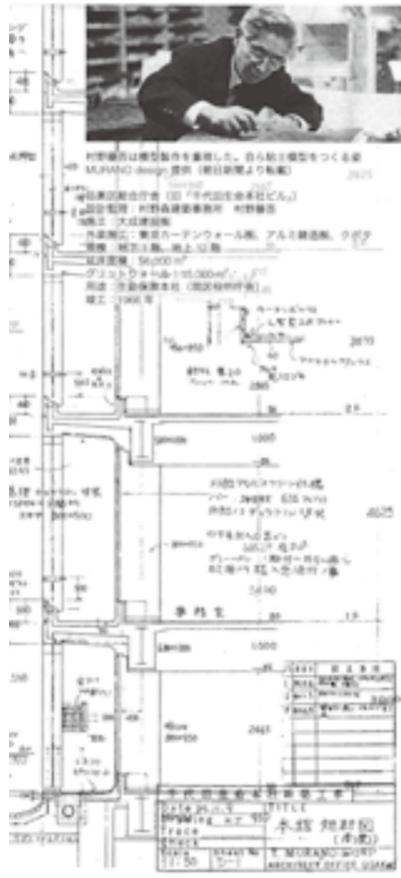
私は、建築設計手法の基本的姿勢を村野藤吾に発見。おこがましいがそれに開眼させられた一人である。有名な話であるが、建築の

設計は①トイレの設計、②階段の設計がしっかりできてはじめて一人前と評価されるとの理念をもって村野は指導したそう。私の推測では、村野の建築デザインは、どこかの建築からヒントを受け、単なる模倣でなく、一端自分のものとして消化し、個性豊かな建築造形を創出した建築家であると思う。ここぞという時には、曲線を用いてアール・ヌーボー様式を表現し、時にはA・ガウディを連想させる造形感覚をも見出している。「村野藤吾のレガシー」としての建築設計思想が、他者にはない個性豊かな造形感覚を作り出したのではないかと。多くの作品履歴と作風をみて、他に類を見ないユニークなデザインは、

## 建築家・村野藤吾の作品に魅せられて

レポート ● 阿部寧 (S38 卒)

NPO 建築・街づくり支援センター  
元・梓設計



その空間に触れたとき心地よく安心感に満ちた感覚を得る。ホテル、オフィス、デパート、教会、美術館、住宅、学校、など多岐にわたる作品群は一貫している。1937年完成の宇都市民会館(46歳の作品)は傑作である。今から83年前にあって、現代建築に優るとも劣らないユニークな感覚を發揮されたはずは抜けた建築だった。外部と内部空間の連続性は見事。演奏者からの音響効果の評価は高い。

今、改めて村野に注目したのは、2018年11月に私達(NPO)が主催した「カーテンウォール建築一過去・現在・未来」をテーマにした講演会がきっかけで、村野藤吾の作品とカーテンウォール建築を対比させたかったからである。講演内容の取材中に気づいた今日の建築のあり様に、ある種の疑問を抱いたのである。現代建築は外壁がガラス張りばかりが横行。どれも一様で中央区銀座通り(銀座8丁目から銀座通り口)などはほとんどの建築が建て替えられ、ガラス張りに変身していることだった。銀座の歩行者天国をゆっくり歩いてみても個々の建物の存在が薄く、通りの左右両面の建物が相互に鏡と化して対面する建物の姿を写し出し、観るものにとって何の感動もなく、通り過ぎてしまうあり様だ。街並み景観は味気なく落ち着かず、無味乾燥的印象しか残らない。あれでは銀座通りが台無しである。ただの商業主義に偏った街づくりでは、歴史観が希薄になり世界遺産には程遠い存在といわれそう。紳士淑女がファッションな姿でウィンドウ・ショッピングを楽

しむのには馴染まない。建物の前に立ってその味わいが鑑賞できる村野建築の感覚が懐かしくもなる。寂しい思いが湧き出るばかりで残念だ。

少し視点を変えて推察してみると、村野の作品は、現存する建築に行き当たる。それを探し当てるのは多分筆者だけの特異な趣味かもしれない。一例を挙げればE・サーリネンの作品にヒントを得たもの。樹木から得た造形感覚。アール・ヌーボー調、障子の格子割りつけ、エレガンスな階段や手摺のデザイン、手作りの建築造形、材料の使い方に独特な手法を發揮、壁面のテクスチャー、石の使い方、など枚挙にいとまがない。建築と庭が一体的に扱われる手法は常に活かされている。新高輪プリンスホテルの客室階の中廊下に面した客室出入り口の低い小鳥のオブジェ付門扉はアット・ホームな感覚。芦ノ湖畔の箱根プリンスホテルも印象深い作品である。ことごとく村野調がにじみ出た建築に魅了され、その建築が一層好きになってしまう。NPO主催の見学会はこれで17回目。前回16回目は日比谷に建つ「日生劇場」だった。そこでは管理者の十分な解説によってくまなく村野の魅力が伝えられ、参加者15名には満足感が漂い、みなさん堪能されたようだった。今回は天気もよく、屋上では和風庭園を背に富士山を眺めることができたのは好運だった。1階では茶室と和風の空間に出会い村野調のデザイン手法を学んだ。

# 「広瀬鎌二建築展SH+ 第2回」レポート

2019年11月16日 - 21日  
11月16日

展覧会：建築会館ギャラリー  
シンポジウム「戦後住宅のなかでSH-30/SHシリーズが与えたもの」

後援：一般社団法人日本イコモス国内委員会／一般社団法人 DOCOMOMO Japan／一般社団法人日本建築学会／公益社団法人日本建築家協会／東京都市大学／東京都市大学建築学科教室／東京都市大学同窓会 [校友会]／東京都市大学建築学科同窓会 [如学会]



※ 多くの来場者が訪れたギャラリー

担当したのは広瀬先生であり、新人で何も知らなかったため、紙面レイアウトを広瀬先生から教わった話など、広瀬先生のマルチな才能についても披露があった。総じて、広瀬先生の思い出話的なエピソードで構成されたといえるだろう。また、今回の展覧会の主題であるSH30については、3方とも見学したことがあり、その高い抽象性と空間の美しさについては共通した見解であったように思う。



※ 尾形光男氏によるSH-30の原寸モックアップの説明

広瀬先生の2回目の展覧会が、2019年11月16日(土)から21日(木)にかけて、三田にある建築会館ギャラリーで行われた。今年度はSH30の原寸のモックアップに加えて、もう一つの目玉としてシンポジウムも企画された。登壇者は、広瀬先生と同年代で東京大学名誉教授の内田祥哉先生、広瀬先生のひとつ下の世代となる建築家の山本理顕さん、日本の建築メディアを立ち上げた世代の編集者の植田実さんの3名である。筆者にもモデレーターとして参加の要望があり、建築家として貴重な経験になる機会と二つ返事で引き受けた。

## モデレーターとしてSH30に高い抽象性と空間の美しさに共通の見解

筆者が在学していた1980年代後期は、広瀬先生が本学で教鞭をとられた最後期にあたる。それは、教育や研究に脂がのっていた時期ではなかったと思う。設計製図の授業でその姿を見ることはほとんどなかった

### クールに見えた広瀬先生の血の通ったエピソードも

し、講義ではスライドばかりで声が小さく、前の席に座っても聞き取れることは難しかった。しかし、図書館でSHシリーズを見た時の衝撃は今でも覚えている。これほど美しい建築をつくった広瀬先生は、なぜか設計することをやめたしまったのだろう。その後退官してから設計活動を再開したが、それはSHシリーズとは異なる建築であった。

シンポジウムは、初日の11月16日(土)に建築会館ホールで行われ、500人ほど入る会場は満員であった。東京都市大学教授の勝又英明教授の司会で、広瀬鎌二アーカイブス研究会の矢野和之さんによる展覧会とシンポジウムの主旨説明から始まった。前半は基調講演として、内田先生と山本さんのスライドショーがあった。内田先生は広瀬先生の同年代の友人として、鉄骨部材の開発研究に協働して関わった話や、大仏様の重源好きが高じて重源の小説まで書いてしまったことなどから、広瀬先生は何事にも徹底しないと気が済まなかったと話され、クールに見えた広瀬先生の血の通ったエピソードが印象に残る。山本さんは広瀬先生と同年代の建築家である清家清、増沢恂、池辺陽を取り上げ、彼らがデビューした1950年代に起こった日本社会の急激な近代化が、若い建築家の住宅に対する様々な挑戦のゆりかごになり、その中を広瀬先生が歩かれていたと語った。後半のディスカッションでは編集者の植田さんも加わり、編集者として最初に



※ 三田知男氏(左)、植田実氏(右上)、内田祥哉氏(右下)

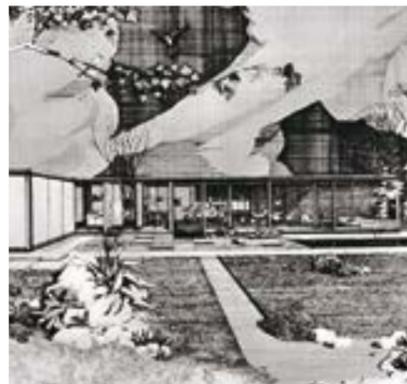
### 作品だけでなく、建築家や教育者としての一面についても知る

このように、シンポジウムは広瀬先生の作品だけでなく、建築家や教育者としての一面についても知ることのできる、大変意義深いものとなった。しかし、広瀬先生がなぜSHシリーズの後に筆を折り、その後違った方向で設計を再開されたのかという疑問は、正直に言って今なお拭えていない。また、日本建築の歴史の流れにおける広瀬先生に立ち位置についてもいまだ不明瞭な部分が多く、次回以降の課題であるように感じた。このように広瀬先生について浅学な筆者に、モデレーターとしての貴重な機会を与えてくださった広瀬鎌二アーカイブス研究会の皆様にお礼を申し上げたい。

**福島加津也** (H02卒)  
東京都市大学教授  
福島加津也+富永祥子  
建築設計事務所



※撮影：桐原武志 シンポジウム



SH-30 広瀬先生によるドローイング

2019年11月、「広瀬鎌二建築展SH+ 第2回」訪問の機会は急にやってきた。新千歳から羽田に向かう機内で見えた武蔵工業大学の石田有作先輩((株)アーキヴィジョン広谷スタジオ)のFacebookが切っ掛けだった。「広瀬鎌二建築展SH+2へ」の情報が挙がっていて、日本建築学会の委員会に出席するために建築会館に向かっていた私はタイミング良く訪れることができた。SNSはこういうときは便利なツールである。

広瀬先生との出会いは1990年4月、武蔵工業大学に入学した直後の講義である。長身で白髪の広瀬先生の貴族に圧倒される間もなく、講義の冒頭

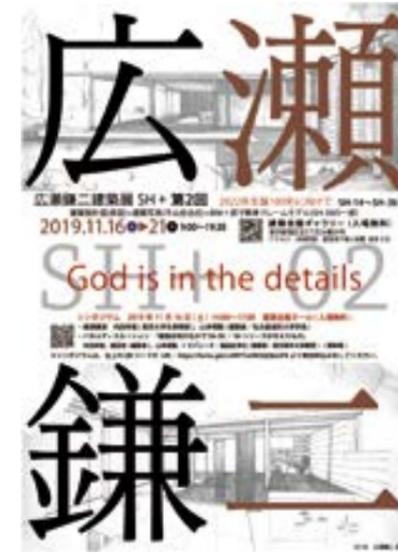
### 「私は建築を教えない」に強い衝撃

で「わたしは建築を教えない」といきなり話され一同は強い衝撃を受けた。当時の私はその言葉が何を意味しているのかはほとんど理解できなかったが、今回展示されていた多くの図面や展示物を通して、「あなたたちが建築をどう感じるかが大切だよ」と30年越しに広瀬先生に答えていただいた気持ちになった。

私は2000年に宿谷昌則先生(建築環境学/東京都市大学 名誉教授)の下で博士号を取得した後、2001年から札幌に移り住み、札幌市立高等専門学校を経て、現在、札幌市立大学デザイン学部で建築を教える立場になった。札幌市立高等専門学校の初代校長は清家清先生(1918-2005)で、私が赴任した時には既に引退されていたが、東京で「私の家(1954)」のハブマイヤートラス、床暖房などについて解説いただいたことがある。また北海道を代表する建築家・上遠野徹先生(1924-2009)には自邸の「札幌の家(1968)」で北海道産の鉄骨・煉瓦を用いた寒冷地住宅の原点に触れる機会をいただいた。この二人の建築家と同時代を生きた広瀬先生(1922-2012)とは何か共通点があるように思う。



SH-30 撮影：平山忠治



### 理屈抜きでスケッチすべてが美しかった

SHシリーズが出た頃(1950~60年代)の住宅の暖房システムは、対流によって熱を伝えるエアコンが普及する前で、建築家が設計する住宅には暖炉や床暖房が多く採用されていた。これは地域こそ異なるが3人の建築家の共通点ではないか。広瀬先生は、暖炉からの放射熱だけでなく、煉瓦に熱の一部を蓄えて「温もり」を得ようと試みたのではないだろうか。先生自身の手で描いたであろう配管・ダクト・ファン・ポンプなどの設備図には「こうあるべき」、「こうあってほしい」という情熱が詰まっているように迫力があつた。住宅設備はその後、工業ユニット化されて配管やダクトを描く建築家はほとんどいなくなった。現在、確立された寒冷地建築の技術からすれば、外壁の断熱や気密・換気などの考え方・取め方については広瀬先生に物申したい部分があくがあるが、なんと言っても理屈抜きに建築空間、設備、家具や外構のスケッチに至るすべてが美しかった。「安楽椅子」は今回の展覧会に合わせて再現されたようで、展覧会の企画側の熱い思いも同時に感じた。もちろん椅子の座り心地は抜群で、天井高に見合った椅子の高さは鉄骨フレームの原寸モデルの中にあるからこそ確認できた。

最後に展覧会場で寺内朋子先輩(studioT2/広瀬研究室出身)に再会し、企画側の裏話などを聞くことができた。武蔵工業大学・東京都市大学の有志卒業生、現役の先生方、学生による企画・運営により実現した美しい展示で、開催にあたって尽力された皆さまに感謝したい。

第3回予定： 2020年11月14日-19日(6日間)  
会場：建築会館ギャラリー  
SHシリーズの最終段階であるユニットを中心に展示予定

「広瀬鎌二アーカイブス研究会」では、広瀬鎌二の図面や建築写真の資料性を高める活動を続けております。企業や個人の方々の協賛にて活動を推進しております。協賛のお問い合わせも下記へお願いいたします。

お問合せ先：  
広瀬鎌二アーカイブス研究会 事務局：寺内朋子(H3卒)  
<hirose.archive@gmail.com>

**齊藤雅也** (H06卒)  
札幌市立大学教授

# 「貝田の未来を考えるプロジェクト」

前芝優也 (H31 卒 / MAESHIBAYUYA STUDIO)

かつては宿場町として栄えた旧奥州街道沿いの福島県国見町貝田地区で集落の未来について考える活動を行っています。貝田宿と呼ばれている宿場町は福島県国見町の中でも最北端に位置しており、宮城県とは目と鼻の先です。

貝田地区では、日本各地で社会問題となっている空き家や空き地の増加が著しく手に負えない状態にあります。貝田地区のような小さな集落では子供が大きくなると進学や就職といったタイミングで貝田を離れる人々や貝田を離れて新しい人生を送っている人々もいるため、一度離れた人々が必ずしも戻ってくるとは限りません。農業が中心の貝田の場合、担い手が減少するため空き家に加え、農地も空き地となってしまう、誰の手にも触れられることなく時間だけが過ぎていきます。そんな貝田では貝田を離れた人々にも未来を担ってもらうために戻ってきてほしいという声がある一方、未来にそれほど期待していないから貝田に戻ってこなくてもいいという声も地区内で混在しています。住民の中にはかつて宿場町として栄えたように未来を明るくするために、1 ターン者など貝田に足を運んでもらえるような場所にもしたいという思いを持っている人々もいます。私は貝田地区でならできることを住民と一緒に考え活動しています。

貝田地区は明治期から大正期にかけて度々の大火により、江戸時代の貝田宿の姿はほとんど残っていません。しかし、かつての屋号・町割り・土地利用・水路などから当時の名残を確認することができます。それらは貝田で生活している人々の生活基盤となっています。

これまで貝田地区での活動は、貝田の未来に関するアンケートを全戸へ実施、北欧の学生を貝田へ招き住民と共に貝田の未来を考えるワークショップの実施、地区内で住民が自由に利用できるストリートファニチャーの製作、空き家を使って居場所の模擬体験、まちづくりの活動の様子や貝田の住民への取材を掲載した「貝田のみらい通信」を

発行、私有地の公的利用に関する実施調査など、未来を考えていくための活動を行ってきました。現在もいずれの活動を継続しながら貝田と関わる機会を得ています。

貝田地区内には集まれる場所として公民館をこれまで使ってきました。しかし高齢化が進むにつれ坂の上に位置する公民館に足を運ぶことが住民にとってハードルが高くなっています。公民館としての役割を崩すことなく高齢者でも簡単に集まれる場所が身近にできるだけ貝田内が明るくなると考えています。空き家や空き地だけでなく、個人が所有している土地の中で部分的に公的利用されている私有地であったり、所有している土地の中で扱いに困っている庭や畑、旧奥州街道沿いに面した敷地内のちょっとした余白など、有効活用できる場所がないか目視と所有者へヒアリングを行い住民が集まれそうな場所を模索しています。中には誰でも入れるように整備されている場所があったりと近所さん同士で共有している場所があったりと世帯数の少ない地域だからこそ地域住民同士の関係が近く、貝田地区ならではの空間の使い方が生まれていると感じ取れます。また住民によって所有している土地が点在していたり所有している土地の使用状況や地域のために開放している土地など、小さな集落で土地利用が混在している状況を明瞭にしていくことで貝田地区の活気を取り戻す手がかりとなるのではないかと考えています。

貝田の未来を考えるには地域住民が欠かせません。関わってもらえるきっかけを作るためにこれからも定期的に貝田へ訪れます。また、まちづくりに関心のある学生との取り組みも意識しています。私は都市と地方の往復を繰り返しながらそれぞれの生活を肌で感じ取ることで、そこでできること、できないことが物事を考えるきっかけにもなったりします。都市と地方に関わる環境を活かしながら、その場にとって大切な場所を生み出すために活動を行っていきます。



空き家を実験的に使用している様子



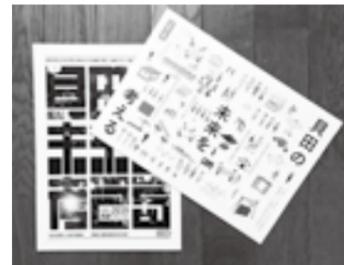
公園内にストリートファニチャーを設置



旧奥州街道にストリートファニチャーの設置



貝田住民との交流会



ワークショップ活動内容をまとめた冊子



貝田のみらい通信



ワークショップ参加者の集合写真 (後列左から2 番目が筆者)

## 建築ジャーナリスト / シネクティックス主宰 淵上正幸氏 講演会

東京都市大学  
建築学科同窓会  
如学会

### 現代世界建築を展望する

Overview of Contemporary World Architecture

日時: 2020年6月6日[土] 16:15 - 17:45

会場: 渋谷エクセルホテル東急 [フォレストルーム / 6F]  
東京都渋谷区道玄坂1-12-2 (渋谷マークシティ内) TEL:03-5457-0109

主催: 如学会 / 東京都市大学 建築学科同窓会

20 世紀に入って早 20 年が過ぎようという今日、中国の経済発展で牽引されて世界の建築家が多数中国に流入し、同国は建築デザインの坩堝と化した。これは世界の建築家の移動性に拍車をかけた。今回自国以外でデザインされた世界の話建築をメインで紹介する。



1 ©Rasmus Hjortshøj, 2 ©Iwan Baan, 3 Courtesy of Michael Moran for Related Oxford, 4 ©Jason O'Rear, 5 ©Ossip van Duivenbode, 6 ©Iwan Baan



淵上正幸氏  
Masayuki Fuchigami

建築ジャーナリスト  
(株)シネクティックス主宰

2018 年日本建築学会文化賞受賞。海外建築家との情報交換により、執筆、講演、インタビュー、海外建築ツアー等を手掛ける。著書に『世界の建築家 51 人 - 思想と作品』(彰国社)、『ヨーロッパ建築案内 1-3』(TOTO 出版)、『もっと知りたい建築家: アーキテクト訪問記』(TOTO 出版)、『アメリカ建築案内 1-2』(TOTO 出版)、『世界の建築家 51 人: コンセプトと作品』(ADP)、『建築家をめざして』(日刊建設通信新聞社)、『アーキテクト・スケッチ・ワークス 1-3』(グラフィック社)、『建築手帳 2020』(青幻舎) など。

■ 定期総会 (フォレストルーム 6F)  
15:30 - 16:00

■ 講演会 (フォレストルーム 6F)  
淵上正幸氏  
建築ジャーナリスト / シネクティックス主宰  
16:15 - 17:45

■ 懇親会 (フォレストルーム 6F)  
18:00 - 20:00

# 佐野プロジェクト

## ハイ-ライト 01\_旧伊達医院改修計画



小林研究室によるライトアップ

### ハイ-ライト 栃木県佐野市

地方創生の一環で、高齢化が進み賑わいが減っている街に向出くことが多くなってきた。東京から北へ100km、栃木県佐野市もその一つだ。一般的には、天明鋳物、佐野ラーメン、アウトレットモール、佐野厄除け大使などで知られている場所、佐野。しかしながら、“街中”と呼ばれる駅前エリアでは商店の合間あいまに空き家が目立つ。1980年代に行われた区画整理事業の際、一時立退きを強いられた商店の多くが区画整理後も街中に戻らず、綺麗なアスファルトの6m道路に人通りが少なく、寂しい街、というのが現状だ。多くの空家の所有者は、近隣の都市部に移り住み、建物は老朽化する一方。それらが駐車場へと姿を変え続けている。

この街中の一角に、築100年以上経つ建坪100坪ほどの木造建築で大正時代に「待合」として建てられ、近年「伊達医院」という街医者として住居として使われ、ここ5年ほど空家になっている、庭付きの大きな屋敷がある。ここを街中活性の拠点となる場所として使いたい、という注文を受けた。僕らのタスクは、ハイ-ライトな瞬間を持ち込み、それを空間として体現し継続的に残っていくものをつくるということだ。まだ完成していないプロジェクトについての紹介なので、今回は僕らが行っているプロセスを紹介する機会としたいと思う。

### ハイ-ライトとは？

ハイ-ライトとは僕らの会社の事業の一つで、大きな時間軸の中でキラリと光る瞬間、活気がなくなってしまう街の中でスーッと現れた賑やかな場所という意味で使っている。白黒の図面に蛍光ペンでマークするようなイメージ。それには、日常を別の角度から見るのが重要になってくる。例えば夏祭りとは、神輿を担ぐという「大変な仕事」が「高揚感のある遊び」になる場とも捕らえられるように。空き家があるという状況は捉え方によっては、楽しめることもある。人が住むための性能を満たすために建てられたものが、古いながらもまだ残ってくれている、ということだからだ。しかもこれを利用したらありがたいがられる、という昨今。となると、その中に足を踏み入れ、綺麗に整え、そこに人を招く、全てを「高揚感のある遊び」として行うことができるのではないかと。そしてそれを体現して、多くの人々を巻き

### KANA LLC. / 加藤比呂史 (H16年卒)

1981年、東京都生まれ。2004年、武蔵工業大学 | 工学部建築学科(現・東京都市大学)卒業。  
藤本壮介建築設計事務所に勤務。2010年、デンマーク・コペンハーゲンに渡る。ヨーロッパを中心に「COBE」「KATOXVictoria」「Ramboll HQ」などで建築設計や公共空間のコンセプトディベロップメントに従事。2019年から栃木県佐野市のまちづくりPJに参画。5月より同市に一時移住。明治大学、東京都市大学と協働した、街づくりの「企画」や「ワークショップ」などを多角的に展開中。

込み、その場所をつくりあげる。同時にその活動自体が空き家を利用しているということになる。何年も眠り続けた空き家自体にとって、それを見てきた地元の人にとって、そこに外から遊びに来た人たちにとって非日常な状況、ハイ-ライトな瞬間になる。ハイ-ライトをつくるために勢いも必要だが、一方で冷静に街を分析することも重要だと考える。

### 調査・検討 / マクロやミクロな視点からその場所を見る

はじめにこの「旧・伊達医院」の敷地とその周辺にどのようなポテンシャルがありどのような将来像を描くことができるか提案する。また、明治大学 I-AUD(国際建築都市デザイン系)増田信吾スタジオと協働して、佐野の街を題材に課題出題し、市民も含めた議論や意見交換を行った。長く住み続けていると見えてくる街の側面と初見だからこそ持つことのできる街への視点、お互いを尊重しあった良い議論になった(2020年7月に佐野市庁舎にて成果発表を企画している)。  
マクロな視点で見ると「旧・伊達医院」のあるエリアは区画整理がギリギリ及ばなかったエリアで、100m角の大きな街区の中に幅2mに満たない通路が多数存在する貴重なエリアだということがわかった。身体的には魅力的な空間だが、人を招き入れるようにプログラムされていない建物が多い。これは具体的な開発に良いヒントとなる。

### ハイ-ライトを持ち込む / その場所に何らかの活動を起こす

僕らは、建物の調査中から「旧伊達医院」内に事務所を構え、日常をそこで過ごし、一見、定量的ではない事柄の調査も行った。屋敷に残っていた古い物品を何か組み合わせると家具をつくり、廊下の隅に休憩する場所をつくる。



古い襖を部分的に剥ぎ取り大正時代が現れる 2020



火曜シネマ初回の様子 2019



初期のコンセプト模型 2018



既存の建物のファサード

日々生活する中で自然な動きから、場所を見つけていく。日々、この場所の可能性を探ることと、問題を突き詰めることを試みた。室内は、長年かけて蓄えられてきた物品に占領されていた。これは多くの「実家」で起きている現象であろう。全てのを僕らのメンバーや、地元の協力者、僕らの友人達で運び出し、使えそうなものを分別してガレージに一時的に保管する。極力価値があるものは、それを使うか、使ってもらえる人に受け渡したいという考えのもと、面倒な作業だが続けている。すでにこの時点からこの大きな屋敷に興味を持ってくれたり、僕らの活動に興味を持ってくれた人々が屋敷を覗きにくるようになった。工事に入る前の期間限定で「火曜シネマ」を毎週催した。シートでつくられたスクリーンをみながら、近所のおじいちゃんおばあちゃんから、近隣の大学教授など、幅広い層の人々が酒を持って集まり、それらを飲み交す。この場所に名前をつけるのであれば、まさに公民館である。また、佐野の街、街づくり、国際交流などをテーマに、定期的にイベントを催してきた。毎回30人ほどの人々が集まり多くのアイデアがでる。会の締めくくりは地元の飲食店からのケータリングと持ち寄りの酒で宴会となる。明治大学の学生と行う一週間のワークショップ合宿もこの場所でイベントとして行った。こうして集まってきた人々と仲良くなり、この場所をつくる作業に加わってもらおうのだ。

### ハイ-ライトでつくって残す / その場所の様相をアップデートする

日々の生活、火曜日のシネマ、いくつかのイベントからの学びや発見に形を与える、仕上げステージである。事業者の定まっていな建物僕らなりに「整える」という作業といえるであろう。カフェになるか、レストランになるか、自習室になるか、シェアハウスになるか、学校になるか、クラブになるか、オフィスになるか、まだわからない。いくつかのプログラムが共存する建物になる可能性も高い。そのような状況でこの建物に何をしたら最善か？僕らもしばらく考えが定まらない時期もあった。しかしながら、この建物のことをもっとも理解しているはずの僕らが、この場所のポテンシャルを上げるための設えをする事が重要だ、という結論に至った。もっとも重要なものの一つが、照明である。日本の木造建築は軒が美しい。このポテンシャルを最大限に活かしてくれるのは照明である。母校というのはありがたい。それを聞きつけた、東京都市大学 建築学科 教授の小林茂雄氏が研究室の学生を引き連れて駆けつけてくれたのだ。「旧伊達医院」の外部照明、以前天明鋳物の鋳造所であった場所に残るキューボラの建屋のライトアップなど、マクロ視点で佐野に眠る宝物を美しく照らしあげた。今、現場では住み込みで大工さんとそれをサポートする、街の人々、僕らの友人が作業を続けている。ひとつ、重要なことは、素人が楽しくつくることに参加できることを増やす設計をすることだ。収益が明確に見込めない建物

の工事を全てを建設業者に依頼してしまっは、採算が取れないのだ。藤森照信氏とお茶室をつくらせてもらった際に学んだ「切って貼るはみんなができる」に掃除と塗装を加え、パーベキューの賄いでバランスをとる。小林研究室の皆さんも含め、僕らのプロジェクトに賛同し、快く手伝ってくれる友人たちには感謝である。不確実性や偶発性の連続で成り立つこの有機的なプロセスであるが、公共的な場所のつくり方としては本質的なプロセスになっているようにも感じている。今月末の仮オープンに向けて作業はまだまだ続くが、皆にとつてのハイ-ライトを積み重ね、最終的に良いアウトプットとなるよう努める所存である。

日本には過ごしやすい中間期もあり、食べ物も美味しく、土や動植物などにも恵まれている場所が多く存在している。僕らは、この日本に先人たちが築いてきた場所や文化を定期的にアップデートして、気持ちよく過ごすことのできる場所をつくり続けていきたいと考えている。

プロジェクト	: ハイ-ライト 01_旧伊達医院改修計画
用途	: 公共的な場所
所在地	: 栃木県佐野市伊賀町 697
発注元	: Localeyес 合同会社
協力	: 佐野市都市計画立市課・佐野商工会議所 佐野駅南商店街組合・佐野国際交流協会 佐野ケーブルテレビ・秋山木工クラブ 東京都市大学 小林研究室 I-AUD 国際都市計画系 増田信吾スタジオ 合同会社シェアリアル
ディレクション	: KANA LLC. ハイ-ライト事業部 (加藤比呂史、金田未来、ポーラ・コック)

僕自身、子供の頃からずっと、知らない場所を探検し、そこに何か施すことで自分の場所にする、多くの少年が一度は体験したことがあるであろう「基地作り」のような動きが建築空間への興味の根元になっている。(これは藤森照信氏とデンマークでお茶室をつくらせてもらった時に再認識したのだが、茶室もある種の基地づくりのような高揚感がある。これはまた別の機会にお話することにしよう。)

僕が昨年まで8年あまり住んでいたデンマークのコペンハーゲンという街では、“フライデーバー”というイベントがある。金曜日、職場で15:00くらいからビールを飲みだし、遅くなるに連れ社員やインターンそれぞれの友達や知り合い(そしてそうでない人々)も集まってきてオープンなパーティーになるというイベントだ。大きなイベントとして企画されているものあれば、小さな会社の仲間内で行われているものもある。共通して言えるのは、基本的には誰にでもオープンだということだ。職場の仲間やそのまた友達も含め皆で人々と職場での非日常の状態を楽しむのだ。

浅井アーキテクト  
同窓生の活躍①

浅井百合 (H19卒)

# 三浦工務店本社 + 亀有香取神社

## 見学会

2020年2月15日



※1

三浦工務店本社

三浦工務店は綾瀬駅から徒歩2.4分、亀有駅から13分程の住宅街に立っている。秋田の宮大工から始まり創業55周年プロジェクトとして本社屋の建て替えが計画され2018年5月に完成。2019年ウッドデザイン賞を受賞している。受賞の評価基準は「木」に関するあらゆるモノ・コトを対象に、暮らしを豊かにする、人を健やかにする、社会を豊かにするという3つの消費者視点から、優れた製品・取組等が審査され受賞案が決まる。工務店から設計を任せられるということは、設計者の技量も問われることになる。

まして、宮大工をベースに培ってきた同社のものづくりの経験は、若手設計者の知見をはるかに超え、事業主とのやり取りは、まさに真剣勝負ではなかったか。建物は南側道路と東側道路の角地に立ち、アルゴリズムにより構成された木製の二重格子ルーバーで覆われた特徴的な南面、東面の外観が目に見え込んでくる。国産材針葉樹の檜材をチソ熱処理し、二重にすることで剛性を高めた格子ルーバーで建物を包み、近隣住宅地との調和と同社の木に対する思いを具現化したもの。建物は鉄骨造3階建て。1階の打ち放しコンクリート部分は構造上鉄骨から切り離され、2階、3階のルーバーは外壁カーテンウォールの外側に取り付けられている。建物に近づくと杉板に段差を付けた本実型枠のコンクリート打ち放しの壁（かなりの精度が求められる確かな施工力を感じる）が目を引き、来訪者を迎えてくれる。風除室を抜けて花梨の無垢材床のエントランスに立つと厚さ60mmの花梨、黒檀など11種類の無垢板（先代会長の三浦昭太郎氏が収集していたもの）を積層した長いカウンター越しに社長、会長席がこちらを向き、オープンな事務空間が広がっている。エントランスホール3層吹き抜けの階段室には、とても豊かな外光が降り注いでくる。



※2 エントランスを入ると圧巻の長いカウンターが出迎える

南から、西からの強めの外光が、外壁を構成している2重の木製格子ルーバーの日射遮蔽効果により和らげられ、光を気持ちよく感じることができる。吹き抜けの階段踏板も幅の広い花梨ツキ板で作られ工務店ならではの贅沢な材料使いと

# 三浦工務店本社

(二〇一八年五月竣工)

## 浅井アーキテクト / 浅井正憲 + 浅井百合 (H19年卒)

- 2007 武蔵工業大学手塚研究室卒業・卒業設計蔵田賞受賞
- 2010 横浜国立大学大学院 Y-GSA 修了 同年新居千秋都市建築設計入社
- 2013 浅井正憲と浅井アーキテクト設立
- 2017 グッドデザイン賞受賞 (HOUSE 1)
- 2019 ウッドデザイン賞ライフスタイルデザイン部門入賞 (三浦工務店 本社) 二歳児の母として子育ても奮闘中。

なっている。2階の空間は床から天井までのフルハイトのガラスサッシで囲まれ、その外側に木製格子を設け、木製庇と合わせ50%くらいの日射遮蔽を実現しているとのこと。格子ルーバーは日差しをコントロールし、近隣住宅からの視線も細やかに切られており、この80cmくらいのガラスサッシとの隙間の効果を実感できた。フルオープンな執務室は幅広の木床と、白く塗り上げられたスケルトン天井の空間にライン照明が吊られ、木天板のフリーアドレスの執務机が並んでいる。



※2 自然光と人工照明が巧みに演出する会議室

作業エリアの外周はモンドリアンの絵のように、収納棚、ロッカー等の木製造作家具と横長の窓が市松状に配置されリズムミカルな雰囲気空間になっている。3階は、屋上テラスを囲んで大会議室、レストスペースと中会議室を設け、社員食堂、レセプション、プレゼンテーションの場など多目的に使えるフロアとなっている。工事はもちろん自社の手によるものだが、設計の意図を読み込み、職人のプライドを感じる施工技術が外装の木組み格子の接合部の加工など各所に垣間見られる。光は拒絶するものではなく、取り込むことにより光を楽しみ人が集まる空間となる。工務店という創造集団にふさわしい施設、働く人が自慢できる一寸お洒落な本社屋ができあがったのではないだろうか。今回は亀有香取神社社務所他の見学の後、三浦工務店さんが車を出していただき社屋の見学ができたもので紙面をお借りして感謝の意を申し上げます。



※1

新築の社務所 (左)・右は本館



※1

ケーキの作成風景がガラス張りで見えるカフェ (茶屋棟)



※1 樹木をとり囲むように設計された社務所



JR常磐線『亀有駅』南口を出て環7に向かい3分くらい歩くと脇参道の神社の大鳥居が目に入ってくる。参道の入り口にはパティシエ五十嵐宏の洋菓子店 La Rose des Japonais が初めてくる参拝者に新鮮な雰囲気を与えてくれる。鳥居の前に立つと参道の視線の先に森に囲まれた神社のたたずまいが見え、その左脇に新しい社務所棟がある。亀有香取神社創設740年(建治二年九月十九日-1276建立)の記念事業として境内のバリアフリー化、排水設備更新等とあわせ社務所棟の立替・カフェ棟(茶屋棟)新設が計画され、2018年12月に完成したものの敷地のコンテクストを読み込み、多目的利用が可能な広場を鳥居と社殿の間に確保し、以前は参道から見えなかった社殿を参拝者の視線の先に感じられる空間に作り変えている。

社務所棟はコンクリート打ち放しのマッシブな固まりに、三角形をつなぎ合わせ多面体で構成された折り紙仕立てのような黒色の耐候性鋼板の金属屋根の下に、前面ガラスの受付事務所の建物が張り付いている。外装は黒色に塗装された細身の丸柱とガラス・サッシ(黒色)で構成され、折り曲げられた屋根を支えモダンな雰囲気に仕上がっている。



※2 設計説明をする浅井百合氏(左)・浅井正憲(右)

# 亀有香取神社

(二七六年創建)

# 社務所棟・カフェ棟・外構整備

(二〇一八年十二月竣工)

天井・小屋裏は屋根の形状をそのままに檜の板張りで行われ、外光や照明の明かりを反射させガラスと金属屋根の間を柔らかくつないでいる。天井板張り折れ曲がりの交差点部、四角錐、三角錐的なおさまりは施工者の腕に頼るところが大きかったとのこと。受け付け部分に限り木製建具をあしらえ、内部の事務所内装の木の雰囲気とマッチし、御守りやお札を頂く場所として心地よい。内部の事務所からは連格子を通して受付の様子が垣間見られように工夫されている。ご祈祷の受付を済ませ参集所への入り口を抜けると、半地下の吹き抜け空間が目前に広がる。決して大空間ではないのだが正面参集所の壁を構成するコンクリート打ち放しの壁、天井までのガラス面、屋根の形状に合わせた木板天井で囲まれた空間は実面積以上の広がりを感じさせる。コンクリートの壁に幟旗(のぼりばた)のように取り付けられた、木製枠に組子細工がはめ込まれたサインは、空間の上昇感、空気の流れをかもし出している。スロープをくぐり参集所前のロビーに立つとガラス面から差し込む光が降り注いでくる。夜の外気の暗さの中では天井に反射された照明の明かりに包まれ参拝者へ安心感と、精神的な高揚感を与えてくれるのではと思われた。

参集所に入ると床から天井面までの縦長のガラス窓がリズムカルに配置され、そこから入る光の帯のように天井照明が筋状に配置されている。切り取られた窓からは浮州稲荷、招魂社の社殿や狛犬の情景が垣間見られようによく計算された設計となっている。鬼子母神の駄菓子や、団子屋などかつての神社仏閣の境内や参道には、人が集まり日常を楽しむ空間となっていた。今回の亀有香取神社の再構成の要素として、社務所と同じ構成で設計されたカフェ(おいしいケーキが盛りだくさん)は、現代風のお茶屋・団子屋(お休みどころ)として必要不可欠なものといえよう。

宮司の唐松範夫さんから、季節の行事、祭りの時ばかりでなく、日常の中で地域の核となるような施設づくりを要望し実現してくれたとの言葉をいただいた。事業者の唐松宮司さん、五十嵐シェフ、設計者の思いが旨くまとまったプロジェクトではないだろうか。周辺環境・敷地・施設の要素を吟味・分解し再構成して組み合わせ、各要素の隙間の空間を意識させるために光や風を感じさせるような居心地のよい間の空間を作っていく。HOUSE 1《間に住む家》(2013年)から三浦工務店本社ビル(2018年3月竣工)等)に続き、設計者がものづくりの中で追求している空間構成の手法を感じるよい見学会であった。次のプロジェクトでどのような隙間の構成を見せてくれるのかを楽しみにしている。



※1 参集所前のロビーはガラス面から差し込む光が降り注いでくる

撮影 ※1: 鈴木文人 ※2: 山岡嘉彌

# JAXA ロケット打上げ立会いと 屋久島縄文杉、建築見学の旅

[事前登録制]

- 2泊3日(出発日は1ヵ月前に決定)
- 参加希望予約受付中
- 日程は打上げ1ヵ月前に決定通知あり
- 年に3~4回打上げが実施されます
- 参加希望登録者に優先通知します。  
(但し、1ヵ月前の決定での連絡の段階で不都合が生じた場合は、キャンセルは可能。)
- JAXAの専門家立会いヤードで打上げを鑑賞

## 太古の昔から永遠の未来へ

屋久島の3千年前~2千年前の古代縄文杉を眺めて、古えに思いを馳せ、種子島では宇宙へと連なる遥かな未来を望む旅です。

屋久島で一泊の後、漆黒の闇の中、黎明の刻に船出し、種子島へ。胸ときめくカウントダウンの後、点火!! 強烈な閃光、五臓六腑に響き渡る轟音と振動、空間を切り裂いていく独特な音響、遠い宇宙へと姿を消していくロケットの姿は、壮大なロマンと冒険する心をいざないます。その光景は、目に焼き付き一生忘れられないものとなるでしょう。是非ご家族・友人お誘い合わせの上、ご参加下さい。

- 参加費用：参加人数により決定
- 日程： 1日目・東京(羽田)⇒鹿児島⇒屋久島(泊)  
2日目・屋久島⇒種子島  
【打上げ日】(夜明け前、クルーザーで種子島へ) レンタカーで種子島宇宙センターへ 専門家ヤードでの打上げ立会い。 種子島⇒屋久島(泊)  
3日目・屋久島の自然と建築を見学  
【打上げ予備日】(古代縄文杉、屋久杉自然館ほか) (3日目は、打上げ1日延期の際の予備日。直前に判明の場合、3日目と2日目のスケジュール入れ替え) 屋久島⇒鹿児島⇒東京(羽田)

- 打上げが延期となる場合があります。万が一、現地に到着後延期となった場合には、見学先を変更します。ご了承ください。

問合せ先・登録申込み先：丹羽 譲治  
☎ 080-1056-4594  
dc-geo@e06.itscom.net



種子島宇宙センターでの打上げ



屋久島 縄文杉



(設計：古市徹雄都市建築研究所)

## 屋久杉自然館 本館外観

コンクリート円筒構造の2つの展示棟と、それらをつなぐ屋久杉造のエントランス・ギャラリー棟で構成された2階建てで、桐ブロックの床と杉造りの館内は木のぬくもりのある気持ちの良い空間となっています。屋久杉の長生きの秘密や人と森のかかわり、屋久島の自然がよくわかる展示や映像があります。



(設計：古市徹雄都市建築研究所)

## 屋久杉自然館 別館外観

古い木造校舎をイメージして作られた建物で、敷地に立っていた地杉(植林杉)で建てられています。



(設計：アルセッド建築研究所)

## 屋久島町役場

新庁舎は屋久島空港近くの旧小瀬田小跡地に建設した一部2階建てで、延べ床面積約3630平方メートル。総務課などがある行政事務の棟、町民向けサービスなどの窓口業務の棟をはじめ、町民と観光客の交流の場として島の歴史などを紹介するフォーラム棟、コンサート会場などにも使える議会棟があります。



(設計：堀部安嗣建築設計事務所)

## 屋久島メッセンジャー

鹿児島県屋久島の情報発信をすることを目的とした会社の直営店。県道沿いの敷地には空き地や林などが開けている。アウトドア用品を取り扱う店舗として使用される母屋と離れの2棟からなる。島内で採れる石を積んだ塀で囲い、その塀の上に木造の屋根を載せている。地元の素材を使い、地元の職人の技術を用いた手法を考え、つくられた。

## 屋久島の建築



屋久島町役場：窓口棟



屋久島町役場：議会棟



# 「建築都市デザイン学部」創設記念

## 「建築+都市 / 100+100人展」

大学展：2020年11月  
浅草展：2020年12月

# 100 + 100

建築 都市

2020年度の100人展は、建築学科と都市工学科の2学科で構成する新たな「建築都市デザイン学部」の創設を記念して、「建築+都市 / 100+100人展」を開催することとなりました。



温原地帯に毎年3カ月間だけ出現する謎の「浮島都市」メスカルティタン[メキシコ]

建築が都市を創り  
都市が建築を創る

上空から見ると円環状の水路が島内を囲み、教会とその前面の広場を中心に4本の道路が二重の十字形に交差して走る、キリスト教の典型的な町並。「建築」と「都市」がお互いに刺激し合いインパクトのある都市空間の造形に高められている。

### <多様な相と多彩な眼> 第1回 UNIQUE RECOMMENDATION

#### 特別招待審査員

(順不同)

- 神子 久忠 建築評論家・神子編集室
- 淵上 正幸 国際建築ジャーナリスト
- 磯 達雄 建築ジャーナリスト
- 櫻井 旬子 建築画報社 代表取締役
- 野城 智也 東京大学 教授
- 菊竹 雪 デザイナー / 首都大学東京 教授
- 中村 真木 彫刻家
- 高岡 典男 彫刻家
- 遠藤 勝勲 遠藤勝勲建築設計室 / 元・菊竹清訓建築設計事務所
- 阿部 勤 ARTEC
- 室伏 次郎 スタジオ・アルテック
- 陶器 三三雄 陶器三三雄建築研究所
- 横河 健 横河設計工房
- 岡部 憲明 岡部憲明アーキテクチャーネットワーク / 元・レンゾ・ピアノ / ビルディングワークショップ
- 小川 晋一 小川晋一都市建築設計事務所
- 岸 隆司 総合資格 代表取締役
- 加藤 祐逸 日建学院 統括

#### 特別審査員 [ 本学関係 ]

- 高橋 達 五島育英会 理事長
- 三木 千壽 東京都市大学 学長
- 岩崎 堅一 東京都市大学 名誉教授
- 濱本 卓司 東京都市大学 名誉教授
- 西村 功 東京都市大学 教授
- 小見 康夫 東京都市大学 主任教授
- 堀場 弘 東京都市大学 教授
- 手塚 貴晴 東京都市大学 教授
- 福島 加津也 東京都市大学 教授
- 山口 勝己 東京都市大学 教授 / 共通教育部・自然科学系
- 岡山 理香 東京都市大学 教授 / 共通教育部・人文社会科学系
- 原口 兼正 東京都市大学 校友会 会長

## 新企画で大学及び隅田公園リバーサイドギャラリーにて開催

従来の展示+新テーマ <アンビルド -UNBUILD-> 展示。今回より多彩な審査員団による数々のユニークな賞が授与されます

開催スケジュール・大学展：2020年11月7日[土] - 11月8日[日] 会場：建築学科棟（東京都市大学世田谷キャンパス4号館）  
開催スケジュール・浅草展：2020年12月5日[土] - 12月13日[日] 会場：隅田公園リバーサイドギャラリー（浅草）（予定）

主催：東京都市大学建築学科同窓会 [如学会]  
東京都市大学都市工学科同窓会 [緑土会]  
共催：東京都市大学建築都市デザイン学部

## 「建築+都市 / 100+100人展 2020・大学展 浅草展」

特別企画1 <手塚貴晴・手塚由比展>、特別企画2 <多様な相と多彩な眼>

## 出展者募集

### 卒業生100+100人の社会における活動を紹介します

大学展：2020年11月7日[土]-11月8日[日] 会場：建築学科棟（東京都市大学世田谷キャンパス4号館）

11/6 [金]	11/7 [土]	11/8 [日]	11/9 [月]
搬入・設営日	「建築+都市 / 100+100人展2020 <大学展>」 10:00~18:00 入場無料		搬出・撤収日
各自で搬入又は郵送	TCU祭		出展作品は委員の手により搬送、保管の上「浅草展」会場に移動

浅草展：2020年12月5日[土]-12月13日[日] 会場：隅田公園リバーサイドギャラリー (日程は予定)

12/4 [金]	12/5 [土]	12/6 [日]	12/7 [月]	12/8 [火]	12/9 [水]	12/10 [木]	12/11 [金]	12/12 [土]	12/13 [日]	12/14 [月]
搬入・設営日	「建築+都市 / 100+100人展2020 <巡回展>」 11:00~18:00 入場無料									搬出
オープニングパーティ	特別展「手塚貴晴・手塚由比展」						搬出車両に荷積みし、倉庫に保管後日、大学にて郵送作業			

### ■応募要項

#### A. 募集作品

- I. 一般展示 - 従来通りの出展作品 [ 模型歓迎 ]
- II. 特別企画テーマ「アンビルド -UNBUILD-」の出展作品

私ども建築家は、建築依頼主に求められる機能や性能のみならず、使われ方、住まい方など、諸々な事柄に対して夢を与える商売でもある。依頼主が思いも寄らない夢を実現でき、感銘を与え、感謝の気持ちであらわれた時は、建築家冥利につきると言っても良い。しかし、その一方で、建築は社会性、経済性などの必要条件から、単なる芸術的、美学的側面からのみでは成立しえないなど、依頼主からの事情により図らずも中止を余儀なくされ、陽の目を見ない作品も少なからず存在する。それらはときに、習作として次の作品へと繋がる貴重な布石ともなり、大きな結果を生み出している例も少なからず存在する。そこで、今回この「建築100人展2019」では、OB、OG 諸氏の「秘蔵の名作」を是非発表の機会として欲しい。以下のようなものが該当すると思われるが、それ以外も、実現にいたらなかった計画案など、規模の大小、建築の種別を問わず、お蔵入りになっていた作品を是非お披露目して、大きな夢や独創的な案を話題にして、建築100人展を盛り上げて欲しいと思います。

#### ●応募案の例

- [1] アイデアだけで、実施にいたらなかったもの (建築作品以外でも、工法の提案、製品の試作など)
- [2] コンペ当選案でありながら、諸事情により実現しなかったもの。(施設者、事業者の変更など)
- [3] コンペ応募案で、入選を果たせなくとも多くの示唆やインスピレーションのあるもの。
- [4] 基本構想や基本設計、または実施設計までいながら、実現しなかったもの。など。

#### B. 特別企画 - <多様な相と多彩な眼> 第1回 UNIQUE RECOMMENDATION

- I. 顕彰制度の導入 - 各種の賞を授与します
- II. 表彰式 - 「浅草展2020」オープニングパーティ席上

今年度より、顕彰制度を導入します。とはいっても、堅苦しいものではなく、優劣を競うものでもなく、「お祭り」としての「建築+都市 / 100+100人展」らしく、<多様な相と多彩な眼>と銘うち、「バリエーション豊かな審査員」と、「バリエーション豊かな各賞作品群」を目指します。建築専門外の各分野のゲストの方々も交じえ、本学の五島育英会による「理事長賞」、大学の「学長賞」をはじめ、構造、設備、工法、材料 etc. 全ての分野の教授陣が興味を示されたものを表彰します。いわば、「ノーベル賞」もあれば「イグ・ノーベル賞」もあります。2020年12月3日「建築+都市 / 100+100人展・浅草展」オープニングパーティの席上で表彰します。表彰は審査員の直筆サインもある<銘板プレート>とし、副賞は審査員各々の特徴ある記念品とします。ご期待下さい。

#### 【応募要項】

- 出展料：7,000円 ※後日納入を原則とさせていただきます。 ※振込先：口座名「如学会」ジョグクカイ みずほ銀行 自由が丘支店 普通口座：1779875 ※出展料は、展覧会運営費・広報費として活用させていただきます。
- 郵送・搬入先：〒158-8557 東京都世田谷区玉堤 1-28-1 東京都市大学建築学科 4号館 2F(鈴木浩宛) (11月1日 [水] 着 厳守)
- 問合せ (連絡先) 建築+都市 / 100+100人展実行委員長 丹羽譲治 E-MAIL：100ninten2018@jogakkai.jp 携帯電話：080-1056-4594
- 主催：東京都市大学建築学科同窓会 [如学会] 東京都市大学都市工学科同窓会 [緑土会]
- 共催：東京都市大学建築都市デザイン学部

#### ●出展にあたりで留意いただきたいこと

1. 代表作、新作の出展、絵画、スケッチ、写真など建築の分野の作品に限ります。
2. 出展パネルは、サイズ、仕上げは自由ですが、A1サイズを基本として、10枚まで。浅草展は会場が広い(770㎡)ので原則的に全て展示可能です。
3. 模型は、ご自身の搬出・搬入が原則となります。模型の出展を歓迎いたします。

# 女流ファイル Part 21

社会の多方面で活躍する女性卒業生を  
順次ご紹介しています。

## 五領田知奈美

(H25 卒)

■file-96 学生をはじめ、建築に関心のあるすべての人のために



GORUYODA Chinami  
2013 東京都市大学建築学科卒業  
(小見研究室)  
2013 住宅会社勤務(設計職)  
2014 不動産IT企業短期雇用  
2015 日本建築学会

私は日本建築学会に勤めています。  
“学会”と聞くと、大人ばかりが集い、堅苦しく、  
難しい話をするイメージがあるかもしれませんが。  
確かに、研究教育機関や総合建設業、設計事務所、  
官公庁等に所属される本学会員の方々によって、  
専門性の高い議論が交わされる面もありますが、  
私は教育分野の業務に携わっているため、学生に  
接する機会も多くあります。  
例えば、毎年10月に開催される「建築文化週間」  
では、学生を対象にした「学生ワークショップ」  
や「学生グランプリ」があります。  
「学生ワークショップ」は、建築学生が企画した  
催しを自ら運営するイベントで、全国の建築系研  
究室が本会に集い、それぞれの研究活動の発表や  
大学間を越えて意見交換をするワークショップ  
です。  
「学生グランプリ」は、学生を対象に茶席の設計・  
制作案を募集するコンペティションです。最優秀  
作品は、銀座三越にて1分の1の実寸で自ら施工  
し、お茶席に使用されるため、大学での学びをよ  
り深める実践的な経験を積むことができます。  
これら学生の学びの場を整え、運営を行うのが、  
日本建築学会事務局にて建築文化事業委員会を担  
当する私の仕事です。  
まずは、企画を検討する委員会の運営として、委

**建築文化事業委員会**

■ 2019 年度活動計画

- 日本建築学会賞(作品)受賞者記念講演会
- 学生サマーセミナー
- 建築文化週間 2019
  - ・ 建築夜楽校
  - ・ パラレル・セッションズ
  - ・ カルチベートトーク
  - ・ 学生ワークショップ
  - ・ 学生グランプリ
  - ・ トウキョウ建築まち歩き
  - ・ 建築文化考
- アーキニアリング・デザイン展 2019

員の出欠確認から審議事項の検討や委員会資料の  
作成を担います。つぎに、委員会によって催し物  
の開催内容が決定次第、例えば「学生グランプリ」  
ならば、銀座関係者との連携のもと審査員の日程  
調整や審査依頼、応募要項の作成や広報活動、応  
募作品の管理や展示の設営、審査会の運営、報告  
資料の作成や収支管理等が主な業務になります。  
このほか建築文化週間は6企画あり、加えて日  
本建築学会の9支部との連携も必要で、9月に開  
催される日本建築学会大会の準備や能力開発支援  
等の業務と並行して行っています。  
かつて建築学生だった私にとって、学生の皆さん  
が自分の力を試し、楽しいや悔しいなど何かを得  
て成長する機会に立ち会える、それが仕事である  
ことは感慨深く、学会ならではと思いました。  
少子化の時代、どれくらいの子供たちが建築に興  
味をもってくれるのでしょうか。日本建築学会は、  
年齢を問わず、建築に関する「知識を深めたい」「意  
見交換や交流の場に参加したい」「コンペティシ  
ョン等を通じて自分の現在地を知りたい」という多  
岐にわたる思いに応える場所があります。そんな  
場をこれからも陰ながら支えたいと思います。  
(日本建築学会)



■ 2019 年日本建築学会作品選奨を3名の東京都市大学の教員が受賞しました

日本建築学会の2019年各賞におきまして、建築学科の教員3名が作品選奨を受賞しました。  
一般社団法人日本建築学会「2019年各賞受賞者」 <https://www.aij.or.jp/2019/2019prize.html>

- ・ 堀場弘「東松島市立宮野森小学校」  
【作品介绍】 [https://www.aij.or.jp/jpn/design/2019/data/5\\_award\\_004.pdf](https://www.aij.or.jp/jpn/design/2019/data/5_award_004.pdf)  
【表彰】 [https://www.aij.or.jp/images/prize/2019/pdf/5\\_award\\_004.pdf](https://www.aij.or.jp/images/prize/2019/pdf/5_award_004.pdf)
- ・ 手塚貴晴「空の森クリニック」  
【作品介绍】 [https://www.aij.or.jp/jpn/design/2019/data/5\\_award\\_008.pdf](https://www.aij.or.jp/jpn/design/2019/data/5_award_008.pdf)  
【表彰】 [https://www.aij.or.jp/images/prize/2019/pdf/5\\_award\\_008.pdf](https://www.aij.or.jp/images/prize/2019/pdf/5_award_008.pdf)
- ・ 福島加津也「時間の倉庫 日本庄商業銀行煉瓦倉庫」  
【作品介绍】 [https://www.aij.or.jp/jpn/design/2019/data/5\\_award\\_011.pdf](https://www.aij.or.jp/jpn/design/2019/data/5_award_011.pdf)  
【表彰】 [https://www.aij.or.jp/images/prize/2019/pdf/5\\_award\\_011.pdf](https://www.aij.or.jp/images/prize/2019/pdf/5_award_011.pdf)

## 中島由佳里

(H19 卒)

■file-97 「街づくり」を通して  
自分も街も進化させていく



NAKAJIMA Yukari  
2007 東京都市大学建築学科卒業  
(近藤研究室)  
2007 平和不動産株式会社  
ビル企画部→ビル建設  
2009 賃貸事業本部 住宅賃貸グループ  
2014 投資と成長が生まれる街づくり協議会  
事務局室  
⇒開発企画部 街づくり推進室  
⇒開発推進部(企画)

建築学科を目指したきっかけは、高校の通学路で  
使っていた駅が、再開発により綺麗に便利に生ま  
れ変わっていく過程を毎日目にしており、自分も  
こんな住環境が快適になる、大きな仕事に携わり  
たい!と思ったことでした。  
建築学科に入学後、専攻については、都市計画に  
興味があったものの、苦学意識のあった法律の勉  
強に近い空気を感じ、それよりも住環境を良くす  
るための研究に関わる方が当時の自分にとって興  
味があり、研究室の雰囲気もなじみそうだと感じ、  
近藤研究室に入りました。  
就活でも、設備系、開発系及び住宅系など様々な  
分野を幅広く見比べながら、ご縁のあった中堅デ  
ベロッパーである平和不動産に入社しました。  
入社面接時から開発に携わりたいと伝えていたと  
ころ、少数精鋭を謳っている当社では、入社1年  
目からオフィスビルの新築業務に携わることがで  
き、2年で3物件の新築案件、大規模改修工事  
についても数多く経験させてもらうことができました。  
今でもその経験は仕事をするうえでの基礎と  
なっています。また、環境評価指標のCASBEEな  
どを取り入れられ始めた時期だったので、近藤  
研究室で学んだことも、想像以上に助けとなり  
ました。  
その後主担当として学生会館の新築と運営に携  
わり、この時期は多忙ながらもメインで仕事を  
進めていく責任と楽しさを感じる5年間を過ご  
しました。  
8年目からは現在の部署の前身ともいえる、街づ  
くり(いわゆるエリアマネジメント)の新設部署  
に配属され、ここから私にとって仕事に向き合

う転機となりました。  
当社で初めてとなる、エリア再開発を推し進める  
部署です。地権者をまとめ行政協議を行い、ビル  
を建設するという、いわゆる再開発業務とは異な  
る、再開発を含む広域エリアをブランディングし  
価値の向上を進める業務です。新設された部署で  
は、担当の私どころか社内でも誰一人経験者はおら  
ず、いわゆる新規事業の部署に配属されたのでし  
た。当社はもともとビルの賃貸管理がメインであ  
るため、新規事業に取り組むためには、考え方を  
180度変えなければならませんでした。何が正解  
で何が間違っているのか、前に進んでいるのかど  
うか、目標自体も定まっていない状態。それでも、  
一つ一つ、やれることをやっていくしかない、焦っ  
ても仕方ない、と腹をくくって取り組むようにな  
りました。「街づくり」を通して、今までにない  
ほど多くの方と関わり合い、支え、育ててもらい  
ました。今まで「もの」をつくることから、「人」  
を繋げる仕事の難しさ・大変さ・共感・喜び・感  
謝を肌で感じています。  
この仕事は完成というものはなく、常に変化させ  
ながらより良いものを追求し、常に世の中の変化  
や流れをキャッチアップしていくことが大切であ  
り、これこそが「仕事の醍醐味」と感じるようにな  
りました。この部署ではすでに6年目と古株で  
すが、視野も広がり、毎回新しい発見や出会いが  
あって、それが血肉となっています。「街づくり」  
という息の長い仕事を通して、自分もこの街も進  
化させていけるよう精進していきます。  
(平和不動産)

■file-98 建築積算からの転身、  
家庭と仕事の両立を目指して

## 三浦美希

(H22 卒)

MIURA Miki (旧姓：元山)  
2010 武蔵工業大学建築学科卒業(小見研究室)  
2010 株式会社TAK-QS入社 仕上積算グループ配属  
2017 有限会社ヒロ建築設計工房入社



大学を卒業後、竹中工務店のグループ会社で建築  
積算業務を専門に手がける株式会社TAK-QSに  
就職しました。仕上積算、躯体積算、鉄骨積算の  
グループに分かれており、私は仕上積算グルー  
プに配属されました。仕事内容としては図面や仕様  
書から数量書を作成して納品まで、1つの物件を複  
数人で1週間程度かけて積算していました。1つ  
の物件の期間が短い分、非常に多くの図面を見る  
機会があり、面白さを感じていました。  
働き始めて5年目になる頃、大学時代に卒業設計  
の手伝いをしたのがきっかけで知り合った先輩と  
結婚し、その翌年には子供も産まれました。育休  
を取り、復帰後1年ほど働きましたが、改めて自  
分を見つめ直し今後の働き方を考えてみると、こ  
れまでは仕上積算だけやってきたけど他の分野の

経験もしてみたい、また仕事の幅を広げてライフ  
ステージに応じた働き方をしたいと思うようにな  
りました。  
TAK-QSは社員の働きやすさを考えてくれる会社  
で、女性社員も多く、自身も働きやすさを感じて  
いたのですが、住まいを東京から神奈川に移すこ  
とにしたため通勤時間やこれからの子育てのこと  
を考えて退社をすることにしました。  
このまま仕事を辞めて子育てに専念するか、いい  
ところがあれば神奈川県内の会社に転職したいと  
考え、退社した後から就職活動を始めました。求  
職中の状態が3ヶ月以上になると子どもの通って  
いた保育園を退園しなければならなかったのです  
が、運良くすぐに希望に合うところを見つけたこ  
とができ、ヒロ建築設計工房という個人設計事務

所にて勤務することになりました。  
ヒロ建築設計工房では確認申請に関わる事務作業  
や図面作図などを担当しています。積算の仕事を通  
して得た図面の見方や仕上げ構成の知識などが役  
立っています。図面を作図するだけではなく、行政  
や関係各所とのやりとり、また現場を見る機会も  
ありますので、これまでより建築により幅広く  
関わっていると感じます。また、勤務時間を短  
時間とし通勤時間も短くなったため、子供との時  
間も増えました。  
現在は第二子を出産したため仕事はお休みを頂い  
ています。子育てに理解のある職場なので、保育  
園が決まればまた職場復帰して子育てと仕事を両  
立していけたらと思っています。  
(ヒロ建築設計工房)

# 都市大校友オンライン & 如学会データベース

## 「都市大校友オンライン」



東京都市大学と東京都市大学校友会では、校友会会員のプライバシーと個人情報の保護を最優先しつつ、東京都市大学校友会会員へのサービス向上を図ることを目的としたインターネット・クラウドサービス「都市大校友オンライン」の運用を2018年より開始しています。

### 「都市大校友オンライン」登録・利用によるメリット

- ① 校友会会報誌「都市」が、毎年必ず無料で送られてきます。
- ② 校友会、地元支部から様々なイベントの案内が届きます。
- ③ 『学生時代、同じサークルに所属していた他学科、他学年の旧友』を検索・探し出すことができます<sup>注</sup>。
- ④ 引越し、転勤後に校友会への住所変更が自分自身で簡単に出来ます。
- ⑤ 同窓会を開催するときに要となる、名簿が容易に作れます。

注)個人情報の第3者への開示設定は、自分自身で可能です。

## 「都市大校友オンライン」の操作方法

### 【初回ログイン】

■Step-1 事前準備・『導入通知書』を用意する。

2018年4月に校友会から全会員に送付された封書に同封され、「ユーザIDおよび初期パスワード」が記載されている通知書です。



### ■Step-2 ログイン

- ① 東京都市大学 校友会のホームページを開く。
- ② 「ようこそ画面」
- ③ 「ログイン画面」→「ユーザIDおよび初期パスワード」を入力
- ④ メールアドレス、生年月日を入力
- ⑤ ログイン完了＝「ホーム画面」



①【校友会ホームページ】②【ようこそ画面】⑤【ログイン完了】

### ■Step-3 登録内容の確認・更新

- ⑥ 画面左「プロフィール確認・変更」を選択する。
- ⑦ データの更新は、データ項目右上の更新ボタンを選択し、「詳細データ画面」で行う。
- ⑧ データ更新が終了したら「閉じる」ボタンを選択する。



### 【会員の検索】

- ① 「都市大校友オンライン」にログインする。
- ② 「同級生検索」→条件を入力(複数指定可) →『検索する』ボタン
- ③ 検索結果一覧表示
- ④ その中の一件をクリック→詳細情報を表示



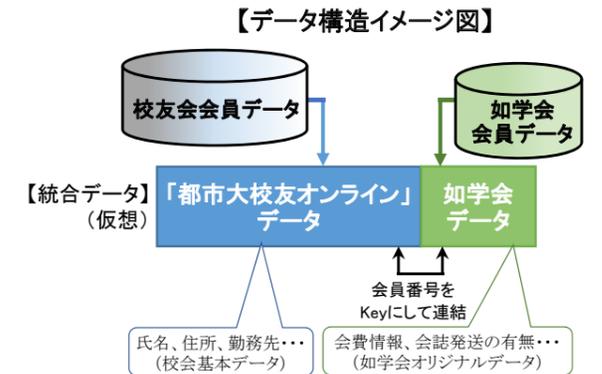
①【ログイン画面】②【検索画面】③【検索結果】④【詳細データ表示】

「都市大校友オンライン」と「如学会データベース」

## 「如学会データベース」

如学会では、「都市大校友オンライン」の運用開始に合わせ、従前から蓄積していた如学会会員データを「都市大校友オンライン」と一元的に連携させた「如学会データベース」を構築しました。

具体的には、右図に示すように会員一人ひとりについて「都市大校友オンライン」から氏名、住所等の基本情報を、「如学会データ」から会費・支援費の納金状況等の如学会オリジナルデータと統合して仮想の統合データとして表示します



### 「如学会データベース」の運用について(注意事項)

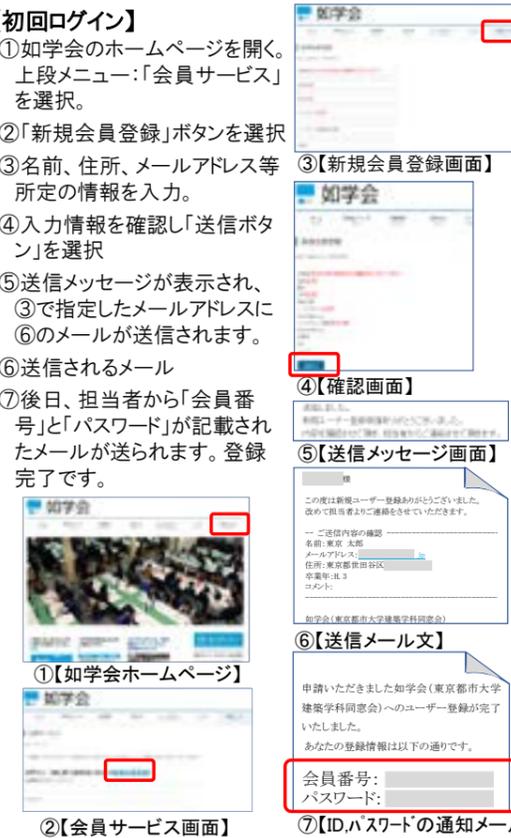
- 1) 「如学会データベース」で出来る事は、ご自身の情報の閲覧・確認のみです。変更はできません。
- 2) 確認できる内容は、以下の通りです。
  - ① 個人基本情報(氏名、住所、メールアドレス、勤務先等)
  - ② 如学会会費、支援費の現在の納金状況
- 3) 住所変更、勤務先変更は「都市大校友オンライン」で自分自身で直接変更して下さい。(左ページを参照)
- 4) 他会員の検索も、「都市大校友オンライン」で行って下さい。(左ページを参照)

## 「如学会データベース」の操作方法

「如学会データベース」のご利用には登録(初回ログイン)が必要です。

### 【初回ログイン】

- ① 如学会のホームページを開く。上段メニュー:「会員サービス」を選択。
- ② 「新規会員登録」ボタンを選択
- ③ 名前、住所、メールアドレス等所定の情報を入力。
- ④ 入力情報を確認し「送信ボタン」を選択
- ⑤ 送信メッセージが表示され、③で指定したメールアドレスに⑥のメールが送信されます。
- ⑥ 送信されるメール
- ⑦ 後日、担当者から「会員番号」と「パスワード」が記載されたメールが送られます。登録完了です。



①【如学会ホームページ】②【会員サービス画面】③【新規会員登録画面】④【確認画面】⑤【送信メッセージ画面】⑥【送信メール文】⑦【ID、パスワードの通知メール】

### 【登録情報確認操作】

- ① 如学会のホームページを開く。上段メニュー:「会員サービス」を選択。
- ② ログインする。送信されてきたID、パスワード(⑦)を入力する。
- ③ 「登録情報・会費・支援費の確認」を選択する。
- ④ 現在、登録されている情報が画面に表示されます。

### 「主な確認表示項目」

会員番号、名前、性別、如学会NEWS郵送先、携帯電話、送信先メールアドレス、現住所、電話番号、勤務先名、勤務先電話番号、勤務先住所、卒業年、所属研究室、如学会会費納金状況他、



①【如学会ホームページ】④【登録情報表示画面】

如学会情報委員会 露木博視(S.55)、中野秀之(S.58)

## 地域に開かれた店舗と人との関わり合い方の模索

人口減少や空き家問題を背景とする深刻な社会問題に対して、日本各地において「まちおこし」「地方創生」を題材とする事例やコンペがこれまでに数多く行われてきました。その建築手法は時代とともに大きく変化していき、現代における建築とはどのようなものなのかを物語っているようにも感じます。そこで、私たちが建築界に対して新しい時代を持ち込むことができないだろうか。そんなことを考えている時に出会ったのが栃木県那須塩原市西那須野まちづくりプロジェクト「サンノハチ」です。屋号の「サンノハチ」は、敷地の番地が3-8であることに由来し、元々この場所が街の象徴的な場所であったことをより印象付けるために名付けられました。

日々の活動を気にかけてくださる地域の方々との交流は暖かく、西那須野の人々の特性でもある余所者を受け入れる精神を直に感じ、このプロジェクトを通じて建築をつくっていく上で重要なことを学ぶことができました。人と建築をいかに密接に関係づけるのか、それが私たち建築家としての使命であると感じています。

プロジェクトは第1期を終えて、今後も第2期、第3期と活動を継続していきます。地域の方々との関わりが増していく中で、西那須野という街をさらに見つめて、相応しい建築をつくっていきたいと思います。今回はそのプロジェクト第1期の活動をお伝えします。

### 福井将理・西寛子 (建築学科4年・手塚研究室)

#### はじめに

このプロジェクトの始まりは、西那須野に古民家を所有する事業主と福井の両親との偶然の出会いがきっかけでした。私たちと事業主との交流の中で、「西那須野の街を変えたい」という事業主の強い気持ちと、歴史ある建築物に心を惹かれた私たちの設計に対する思いが重なったことで互いに協力していくことになり、2019年5月に活動を開始しました。

#### 概要

栃木県西那須野駅から徒歩5分圏内に商店街に位置する900㎡ほどの敷地に、古民家2棟、蔵1棟、倉庫1棟、井戸小屋1棟があり、これらの改修を通じて商店街を巻き込みながら街に活気を取り戻すことを目的としています。

西那須野駅周辺は、土木遺産にも登録されている農業用疎水のために開拓された歴史をもち、かつては那須の玄関口を担う唯一電車が停まる街として魅力のある賑わいが特徴でした。しかし、近年は駅周辺も歩行者が少なく、お祭りなどの行事以外ではその賑わいが見られないようになってきました。

そこで、歴史ある古民家を改修して街の拠点となるような建築をつくることを目標とし、プロジェクトを進めていくことになりました。プロジェクトの第1期として今回は古民家1棟の改修を行い、健康に特化した物販スペースと地域に開放したフリースペースに生まれ変わりました。



改修後の古民家と2人

人を知ることが街を知ること

#### デザインコンセプト

サンノハチ × 健康 …食(身体)、生活(心)  
ふれあい…賑わい、子供の遊びや学び

今回改修した古民家には、八百屋兼豆腐屋として活用することが求められていました。また、事業主やプロジェクトチームの参加者との対話や地域の人々とのワークショップを通じて、人が行き交う風景を取り戻すことやスローフードを推進して健康的な食生活を日常化させること、街の中で新たな活動をチャレンジする場を提供することや人々の交流の場を創出することなど、この建築に対する大きな主題が話し合われました。

様々な意見をまとめた結果、食から地域の人の健康を支えることや、「サンノハチ」に通うことによって心も健康にすること、そして、売り場だけではなく、街にとってプラスとなるふれあいの場を設けることにしました。

そこで私達は、地域の人々が立ち寄りやすく何か懐かしい場として、コーヒーの提供を初めとする食を通じた身体と日常生活の心の拠り所となる健康の場、イベントなどの開催による賑わいや子供のアフタースクールの学びや遊びのためのふれあいの場を掛け合わせた建築を提案しました。また、150年の歴史を継承すべく、既存の建材や使わなくなった芦野石などを洗浄し再利用することで、古民家が備えていた家らしさが保たれるように設計しています。



オープン初日：多くの人で賑わう



改修前

#### ワークショップ

プロジェクトを進めていくにあたり、地域との関わり方や街への開き方を模索した結果、2種類のワークショップを開催することにしました。

1つ目は、改修前の取り壊してしまう壁に落書きをするワークショップを行いました。これは、普段、家ではできない落書きをするということを大人子供関係なく思う存分楽しんでもらうことで、建物の中に気軽に入ってもらい愛着を持ってもらうことを目的としています。2つ目は、施設のオープンと同時に野菜のタネを植えるワークショップを行いました。これは「サンノハチ」が街の人々に意識され地域に根付いて欲しいことから、健康をコンセプトに様々な野菜を植えて一緒に育てていくことを目的としています。2つのワークショップでは多くの人に参加していただき、同時に今後の街に対する希望も聞くことができ、実りの多いワークショップを開催することができたと思っています。

ワークショップを通じて、私たちが学んだことも多く、その中でも「人は多種多様であること」、誰もが当たり前を知っていることを実感することができました。多くの方とお話させていただく中で、人見知りであったり、おしゃべりであったりすることや、落書きを見ても人によって表現が独特であることが感じられ、街をつくる、建築をつくるにあたって人を知ることがはにより重要であると強く感じました。

今後も月毎の誕生日会や餅つき大会、有機野菜の講演会など、多種多様に渡るワークショップを開催し、地域の方々を巻き込んでいきたいと思っています。



改修前落書きワークショップ



改修後

#### 制作過程

改修にあたり、私たちは設計する人と作る人との間で生じるギャップによって古民家の空間全体が分断されてしまうことを懸念し、コンセプトと全体を熟知した者同士による空間への愛着が、1つの空間を生むのではないかと考えた結果、全ての改修を私たち自身で手掛けることを重要視しました。

新たに設けた1つ1つの家具や建具が、「サンノハチ」のシンボルとして存在しつつ、同時に街をつくっていく上でのキーオブジェクトになるように設計しています。普段はレジ台として使用している家具は、駅前通りのお祭りの際に外に移動して屋台として使用することが出来ます。他にも野菜やプランターなどの様々な商品の陳列に使用できるように設計した棚は、ワークショップ等の際の什器として活用することが出来ます。



レジ台制作 (奥:福井、手前:西)

#### 最後に、これから

「サンノハチ」のプロジェクト第1期が無事成功を収められたのは、多くの方々に支えていただいたからだと思っています。プロジェクトに携わらせていただいた事業主や西那須野の地域の皆様、資金援助をしていただいた如学会、ご指導いただいた先生やOB、OGの方々、本当にたくさんの方々の協力によってここまで来ることが出来たことに対してこの場を借りて御礼を申し上げます。

このプロジェクトはここで終わりではなく、これからどうしていくかが大切です。そのため、今回学んだことや感じたことを生かしながら今後より良い空間を目指し、私たちが良いと思う方向へ舵を切って行きたいと思っています。ここまでの7ヶ月間は正直辛いことも多くありましたが、建築が完成した際の喜びを味わえたことが何よりも嬉しかったです。今後もこの嬉しさを忘れずに精進していきたいと思っておりますので、応援よろしくお願い致します。

愛着を生む建築と私たちの携わり方



## 蔵田賞・如学会賞及び各賞

如学会では建築学科卒業研究の顕彰として「蔵田賞」（卒業設計最優秀賞）と「如学会賞」（卒業論文最優秀賞）を授与しています。

建築学科教室の協議の結果、2019年度「蔵田賞」に塩谷晃平君（手塚研究室）、「如学会賞」に山田修大君（西村研究室）が選出され、2020年3月19日の学位授与式にて記念品が贈呈されました。

### ■蔵田奨学基金賞

塩谷 晃平（手塚研究室）

### ■如学会賞

山田 修大（西村研究室）

### ■卒業設計優秀賞

2020年2月8日・18日に卒業設計講評会が行われました。8日は学内講評として計画・意匠系の専任教員および設計演習の講師陣を審査員に、18日は学外講評として長谷川逸子氏、高松伸氏をゲスト審査員にお迎えし、審査の結果、下記の通りに個人賞が授与されました。また、下記6名が卒業設計優秀賞として建築学科教室から表彰されました。

#### ・卒業設計優秀賞

猪熊春陽子（堀場研究室） 岸 晃輔（福島研究室）  
齋藤 穂佳（福島研究室） 清水 大介（福島研究室）  
寺島 瑞季（福島研究室） 松島 千晶（手塚研究室）

#### ・個人賞 ※当日会場にて表彰

岸 晃輔（福島研究室） 高松 伸賞 羽鳥達也賞 柏木穂波賞  
松井 亮賞  
出岡 りの（西村研究室） 遠藤克彦賞 栗田祥弘賞 佐々木健賞  
寺島 瑞季（福島研究室） 長谷川逸子賞 伊藤 暁賞  
猪熊春陽子（堀場研究室） 富川浩史賞  
齋藤 穂佳（福島研究室） 小栗幹雄賞  
塩谷 晃平（手塚研究室） 石田有作賞  
堀野 絢平（手塚研究室） 杉本拓海賞

### ■卒業論文優秀賞

2020年2月10日に卒業論文発表会が行われ、建築学科教室から下記の11名が卒業論文優秀賞として表彰されました。

赤城 勇貴（天野研究室） 小幡 彩（勝又研究室）  
村松 友美（山口研究室） 中村 俊喬（岩下研究室）  
大家 歩美（小林研究室） 西村 祥太（近藤研究室）  
山田 星奈（大村研究室） 前島 淳平（焦研究室）  
安江 葵衣（大橋研究室） 高橋 悠里（小見研究室）  
伊東 大将（佐藤研究室）

### ■修士論文優秀賞

2020年2月12日に修士論文発表会が行われ、建築学科教室から下記の3名が修士論文優秀賞として表彰されました。

梶谷紗世子（福島研究室） 倉持大梧郎（西村研究室）  
三沢 康平（小見研究室）

### ■修士設計優秀賞

2020年2月18日に修士設計講評会が行われました。学外審査員に長谷川逸子氏、高松伸氏をお迎えし、審査の結果、以下の通りに審査員から個人賞が授与されました。また、建築学科教室から以下の1名が修士設計優秀賞として表彰されました。

#### ・修士設計優秀賞

高木 駿輔（手塚研究室） 橋元 一成（堀場研究室）

#### ・個人賞

橋元 一成（堀場研究室） 長谷川逸子賞  
高木 駿輔（手塚研究室） 高松 伸賞

## 2019年度 卒業論文・修士論文 標題一覧

### 天野研究室（計画系）

赤城勇貴 大学と地域高齢者住宅との連携 ー大学と近隣高齢者居住施設との連携に関する研究その2ー

内原縁 事例からみた大学とサービス付き高齢者向け住宅との連携課題 ー大学と地域高齢者住居施設との連携に関する研究 その1ー

奥山貴文 郊外団地型分譲マンションにおけるセンター地区空き店舗活用に関する研究

佐々木香 事例に見る子育て世帯におけるマンション住戸改修ニーズ ー郊外団地型分譲マンションの住戸改修に関する研究その1ー

西村聡悟 郊外団地型分譲マンションにおける居住階と住環境評価との関係に関する研究

濱咲喜子 郊外団地型分譲マンションの改修実態と子育て世帯を対象とした空き住戸改修の検討 ー郊外団地型分譲マンションの住戸改修に関する研究その2ー

志村真之介 都市の街路空間の浸透性に関する研究

### 勝又研究室（計画系）

小幡 彩 全国の重要伝統的建造物群保存地区の持続可能性に関する研究 ー各地域の保存修理の技能継承と技術継承ー  
桑原優子 舞台技術関連会社による公立文化ホール長期使用のための方策 ー公立文化ホールを長期使用するための方策構築に関する研究ー

小池豊 仏教寺院の渡り廊下の計画技術についての考察 ー古建築の計画技術に関する研究ー

佐々木啓介 公立文化ホールにおける活性化に関する研究 ー公立文化ホールを長期使用するための方策構築に関する研究ー  
寺院本堂の維持保全と持続可能性に関する研究 ー江戸期以前に竣工した本堂と堂宮大工による技能継承ー

田夢俊基 公立文化ホールにおける長期使用の要因に関する研究 ー公立文化ホールを長期使用するための方策構築に関する研究ー  
多良彩花 全国の神社社殿の形式と組み合わせの実態に関する研究 ー北海道・近畿・中国・四国・九州地方を対象としてー

吉田周平 社寺建築の塀及び垣根の計画技術についての考察ー古建築の計画技術に関する研究ー

### 福島研究室（計画系）

落合志保 間仕切りからみる日本住宅の平面変遷

梶谷紗世子 住宅風仏堂の空間的形式に関する研究

吉川瑞樹 西明寺本堂にみる構造形式と空間構成の時代変遷

筒井魁汰 日本倉庫建築からみる装飾観の変遷

### 堀場研究室（計画系）

猪熊春陽子 現代における神域具化方法に関する研究 ービルの屋上片隅で神の領域を体現する社寺建築についてー

岡田亘生 農産物直売所の空間的特徴の研究 ー世田谷区喜多見地域を対象としてー

### 山口研究室（計画系）

大島秀頭 大学におけるラーニング・ commonsの空間構成と機能に関する研究

半澤明日香 アクティブ・ラーニングの視点からみた中学校の普通教室の広さに関する研究 ー札幌市立M中学校のユニット学習の実践からー

和泉竣也 小学校の引き戸形式オープン型教室における授業展開と引き戸の活用に関する研究 ー札幌市立N小学校の事例についてー

鈴木 郷 小学校の引き戸形式オープン型教室における利用状況・評価に関する研究ー札幌市立N小学校の事例についてー

### ※修士は氏名に下線

村松友美 中学校における学年別教科教室型校舎の成果と課題に関する研究 ー三春町立三春中学校の事例についてー

### 岩下研究室（環境系）

小川真由 教室空気環境とインフルエンザ欠席との関係に関する長期測定

顧 親親 小学校の冷暖房使用状況と室内環境の関係に関する研究  
佐藤 明 学校体育館への冷房導入が室内温熱環境および熱中症リスクへ及ぼす影響に関する試験研究

中村俊喬 断熱性能の異なる体育館への冷暖房導入が室内空気環境に与える影響に関する研究

山田涼太 小学校・中学校における学校衛生検査を用いた空気環境の地域性による差異に関する研究

### 小林研究室（環境系）

大家歩美 応援する心理が色彩選定へ及ぼす影響

小川佳奈子 市川市文化会館のアプローチ空間における時刻と利用状況に合わせた照明改修提案

鴨狩歩実 学生と地域への貢献を目的とした校舎内照式ライトアップ  
渋谷彩乃 桜の光色と揺らぎを操作する住民参加型ライトアップ ー暗黒化された呑川の桜並木を対象としてー

福田一貴 窓明り作品を通した街と桜を接続する照明環境の実践  
横澤 稜 道路と建物とボイドを一体的に計画した街路照明とその評価

渡邊拓海 教室でのコンビニ昼食の環境改善に関する研究

### 近藤研究室（環境系）

山本 滉 IoTを利用した一人部屋の換気・空調用エネルギーの低減に関する検討

阿部汐里 調理機器から発生する放射熱量の現場測定方法に関する研究

新井隼人 CLT工法を適用した集合住宅の冬季室内温熱環境に関するCFD解析

木下友貴 夏季条件の実験室を対象とした二重エアカーテンの有効性に関する実験とCFD解析

東海林るみ 実測による地域冷暖房用ボイラの高効率化の検討  
土屋椎菜 密閉空気層の熱抵抗に関する既往のデータの整理とCFD解析の試み

西村祥太 冬季条件の実験室を対象とした二重エアカーテンの有効性に関するCFD解析

久恒まい CFD解析による地域冷暖房用ボイラの高効率化の検討

### 大村研究室（構造系）

阿久澤美白 打重ね部を有するコンクリートスラブの構造性能に関する研究

阿部紗也加 軸力を受ける鋼管コンクリート杭におけるせん断性能評価に関する研究

遠藤淳也 打重ね部を有するコンクリート壁の一面せん断試験  
高橋周吾 打重ね部を有するコンクリート壁の構造性能に関する研究 ー 載荷試験

畑島美南海 RC造壁の要素モデルにおける圧縮歪み軟化特性に関する基礎実験

宮田悠里 打重ね部を有するコンクリート壁の構造性能に関する研究 ー非破壊試験によるコンクリート打重ね部の検出

山田星奈 RC造壁の要素モデルにおける圧縮破壊領域長さに関する解析

### 焦研究室（構造系）

田中優稀 一面せん断平板割り込み接合部を有する鋼管プレースの有限要素法解析

水出浩加 損傷を受けた建築構造用鋼材の高温時特性の実験計画ー予歪履歴の検討

前島淳平 損傷を受けた建築構造用鋼材の高温時特性の実験計画ー予歪履歴の検討

林 直輝 建築構造用鋼材 SS400の低サイクル疲労特性

### 西村研究室（構造系）

出岡りの 遊水地を利用した大規模避難施設避難施設の建築概要と構造計画

鈴木健太 11階建て高層建築を対象とした新型免震構造の検討  
富田圭亮 11階建て高層建築を対象とした制震構造の検討

野村 瑞 超高層建築を対象としたパッシブ減衰装置の最適減衰係数  
山田修大 3階建て事務所建築を対象とした高減衰制震構造の検討

青木 修 11階建て高層建築を対象とした動吸振器による耐震性能の検討

倉持大梧郎 高減衰・制震構造システムの研究開発と実施設計への応用

### 大橋研究室（材工系）

瀧石宗太 伝統建物の設計法の作成ー板壁の基準値作成ー  
野原武士 在来軸組工法木造住宅の余震による倒壊可能性に関する解析的研究 ー外装モルタル仕様の2階建て木造住宅についてー

安江葵衣 我が国の木造軸組構法の変遷に関する調査研究 ー九州圏における構法調査ー

山口智実 都市型中大規模木質ラーメンに関する研究 ー接合部の開発ー

渡部有太 伝統木造建築の水平耐力の推定に関する研究 ー限界耐力計算を用いた設計例の作成ー

道下瑛司 N値計算の精度に関する研究 ー静的実験とN値計算の比較ー

### 小見研究室（材工系）

栗添凌 次世代足場の開発経緯と現状に関する研究  
小林杏 神社社殿（本殿・拜殿）の構法と維持保全の実態

ー北海道・近畿・中国・四国・九州・沖縄の神社を対象としてー

佐藤由佳 SHシリーズ住宅における三鉸接組立ラーメン構造の変遷について

高橋悠里 SHシリーズ住宅におけるピン・ブレース構造から三鉸接ラーメン構造に至る変遷について

中条一真 東日本大震災における福島県内の応急仮設住宅のライフサイクルコスト分析

牧 裕也 東日本大震災における福島県内の応急仮設住宅のライフサイクルコスト分析

茂木勇斗 建設就業者不足と外国人材の活用に関する研究  
三沢康平 広瀬鎌二のスペースユニット住宅の構法分析とBIMモデルによる再現

### 佐藤研究室（材工系）

北井勇気 早強ポルトランドセメントを用いたセメント硬化体の水和反応に関する基礎的研究

宮本敦司 長期片面加熱がコンクリート部材の水和物組織に及ぼす影響に関する実験的研究

伊東大将 マイクロピッカース試験を用いたセメント硬化体の力学特性評価手法に関する基礎的研究

薄井友介 長期暴露試験体による鉄筋コンクリート補修工法の評価に関する研究

窪嶋一貴 円筒形建築物の変形挙動と長期耐久性予測に関する調査

塩田陸斗 再生骨材を使用したコンクリートの長期暴露試験による性能評価

# 2019年度 卒業設計・修士設計

## 卒業設計 学内講評会 2020年2月8日 学外講評会 2020年2月18日

### 手塚研究室 (計画系)

- 塩谷晃平 麦酒工房 ①
- 徳江 航 機械式時計の建築意匠化 ②
- 西 寛子 もし、小屋と旅に出たら ③
- 福井将理 サンノハチ ~建築を開拓する~ ④
- 堀野絢平 高倉式奄美空港 ~島の旅を景色を人をつなぐ~ ⑤
- 森川麻里 文化の巣 ⑥



### 福島研究室 (計画系)

- 河邊有紗 Dancing with Architecture ⑦
- 岸 晃輔 裏駅 機能をもたない駅の並行日常体験 ⑧
- 小林友哉 DNA of Architecture ~考現学と建築の狭間で~ ⑨
- 齋藤穂佳 死者の都市の記憶継承~都市における死の未来のあり方 ⑩
- 重野雄大 消えゆく町工場と共に暮らす ⑪
- 清水大介 地境再編 ~多摩ニュータウンの斜断面における農育施設の提案~ ⑫
- 寺島瑞季 文章→ドローイング→空間 の連想ゲーム ⑬



### 堀場研究室 (計画系)

- 猪熊春陽子 神域再生 ~神域濃度可視化によって造られる神社の未来~ ⑭
- 岡田亘生 FARMLAND REPUBLIC ~新規就農者集合住宅~ ⑮
- 木村由佳 学生会館の再興 ~大学の変革期に提案する学生自治の建築~ ⑯
- 志賀今日子 ビンテージ ~生まれ変わり続ける建築を~ ⑰
- 高橋佳那 ポールパーク ~日本における新しいスポーツの見方~ ⑱
- 中島 響 新たな街の中心 ~子ども食堂の開く未来~ ⑲
- 松島千晶 住み継ぐ家のカタチ~ゆっくりと改修する築200年の京町家~ ⑳



### 西村研究室 (構造系)

- 出岡りの 不安定な安定 ㉑



## 修士設計 講評会 2020年2月18日

### 手塚研究室 (計画系)

- 北村友譜 多摩川浅間神社 ㉒
- 岸田淳之介 宇宙に住む ~SF作品の変遷と系譜、そこから導き出す長期宇宙居住計画~ ㉓
- 島田悠太 日本人学校における校舎の在り方 ~ジャカルタ日本人学校の建て替えの提案~ ㉔
- 高木駿輔 密教における曼荼羅空間と塔建築の在り方 ~醍醐寺准胝堂の再建~ ㉕
- 鶴田 叡 森の回遊 ~太田駅の再編~ ㉖
- 松浦航大 リハビリ施設の施設環境における研究 ㉗
- 山道峻介 新宿ゴールデン街の維持と更新の設計手法の研究 ㉘



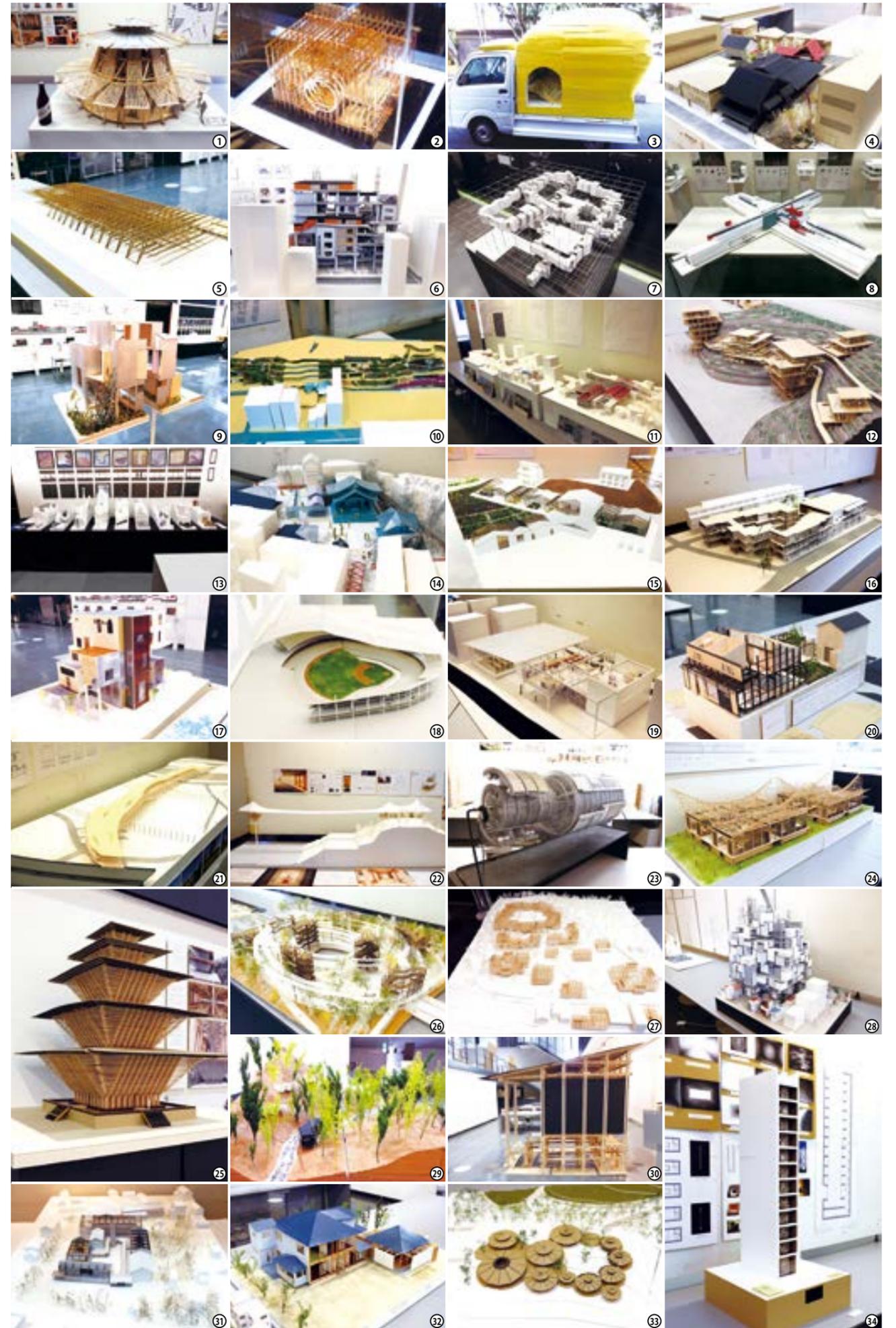
### 福島研究室 (計画系)

- 大竹 俊 力ある静かな建築 ~自然の持つ特性をより豊かに体験するための宿泊施設~ ㉙
- 田淵泰斗 蛭を保護する観賞装置の提案 ㉚
- 遠西裕也 酒蔵の更新 ~文化的リサーチから見る酒蔵の保存と活用~ ㉛



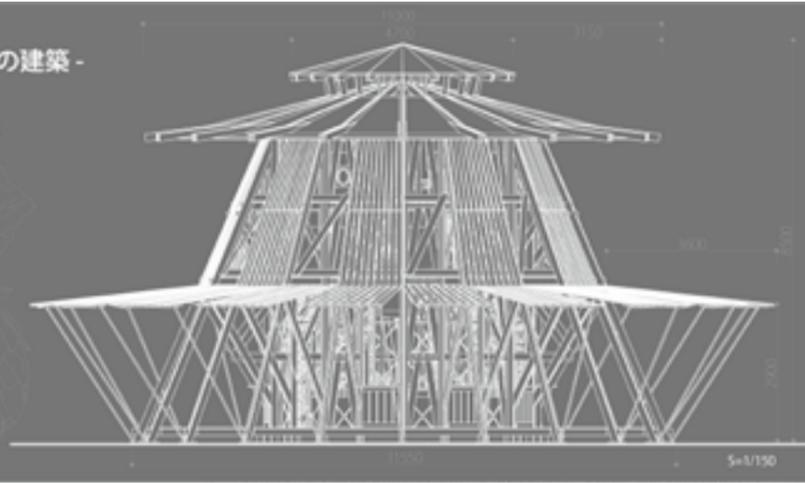
### 堀場研究室 (計画系)

- 川田夏実 有形文化財フレンズセンターの改修と教会堂の建て替え ㉜
- 草野良平 動物愛護センターにおける管理形態の研究 ㉝
- 橋元一成 神保町における影の建築的価値に関する研究 ㉞



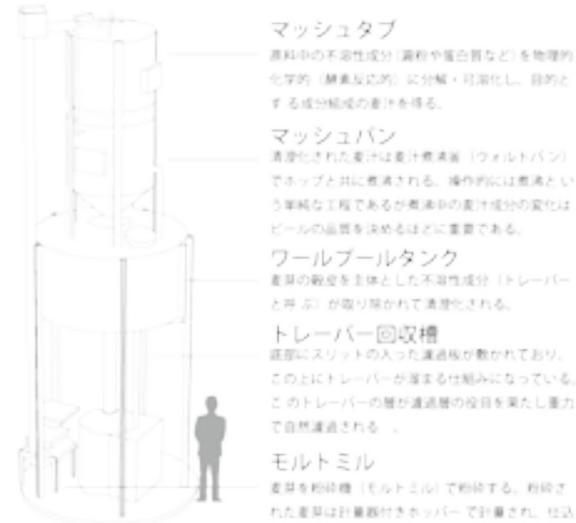
# 『麦酒工房』 - 最高の一杯のための建築 -

多くの場合、人々が暮らす都市からは離れた大規模工場で生産される酒“ビール”。そのビールを小規模かつ生活区のなかで醸造するための空間を追求した。



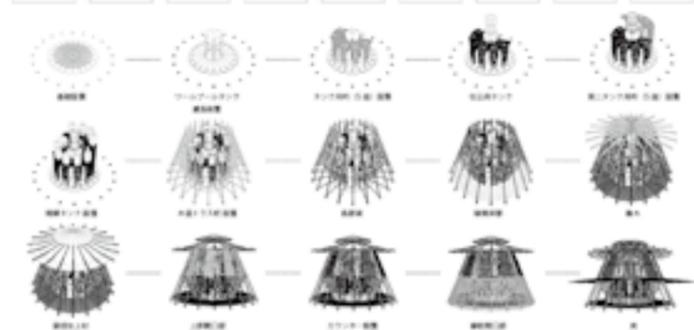
私には、街中で小規模に一流のビールを醸造し地域に提供することと生業とする親戚夫婦がいる。プロフェッショナルな空間を人々の生活区に溶け込ませることをコンセプトとした。飲酒という行為だけに留まらず人々生活と建築を結び付け、拠点とすることを目標に設計に取り組んだ。

### ■ 醸造設備 各部説明



この建築は固定の店舗と仮設店舗の中間に位置し、各地の醸造家に対し提案するものである。分解・再構築が容易なユニットで構成され固定だけでなく、サーカス小屋のように移動も可能な設計としている。工業的機能美を備えた醸造設備を木の構造体で包み込む。醸造空間と暮らしとをつなぐ縁側設計、醸造工程の全てを社会に対して公開する。

### ■ 各部材構成・建設工程



# 3階建て事務所建築を対象とした高減衰制震構造の検討

## 1 研究目的

パッシブ制震構造とは、建築構造体の内部に減衰装置を設置し、地震時にエネルギーを吸収することで、地震の振動を低減させる構造のことである。この概念が提唱されてから現在まで様々な工法が考案・実用化されており、我が国では1200棟を超える制震構造の建物が建設されている。しかし、従来の制震構造で解析通りの性能を示すことは少なく、建物の規模が大きいほど減衰は思った通りに入らないことが実測によって明らかになっていった。

本研究の目的は、新たに減衰率10%以上を目標とした高減衰制震構造を示し、実際の建物に適用することである。

## 2 研究概要

既往の研究により、減衰装置を設置したときの構造体の固有角振動数の変化と、構造体の減衰率が密接に関係していることがわかった。本研究では、その理論を応用して、実際に東急技術研究所内に建設予定の建物に採用し、解析を行った。概念図を図1に示す。青い立方体が積層ゴム支承、赤い部材が減衰装置であるオイルダンパーである。

解析対象の建築物は地上3階建て、高さ12mの鉄骨造事務所建築である。主要な架構は長辺方向に4スパン30m、短辺方向に3スパン24mである。

## 3 特徴

高減衰制震構造システムの原理図を図2に示す。減衰装置と積層ゴム支承を組み合わせて用いることが、このシステムの特徴である。従来の制震構造では、建物に入力された水平力は水平剛性の高い周辺の柱が負担し、減衰装置に入力される力は小さくなる。それに対し高減衰制震構造システムでは、減衰装置を設置するフレームの柱に積層ゴム支承を設置する。そうすると柱の水平剛性は小さくなり、建物に入力される水平力を減衰装置に負担させることができる。そのため、減衰装置の制御力も大きくなり、建物に大きな減衰効果をもたらすことができる。

## 4 最大減衰の推定

減衰係数が0(減衰装置が入っていない)の構造モデルの角振動数 $\omega_0$ 、及び減衰係数が無限大(減衰装置の内部剛性と同一軸剛性のブレース)の構造モデルの角振動数 $\omega_\infty$ を求める。

以下の式から、減衰装置の最適減衰率、建物に付与される減衰付与効果を算出することができる。

$$\beta = \frac{\omega^2 - \omega_0^2}{\omega_0^2} \quad (1) \quad \eta_{max} = \frac{\beta}{2 + \beta} \sqrt{\frac{1}{2(2 + \beta)}} \quad (2)$$

$$\omega_{opt} = \sqrt{\frac{\omega^2 + \omega_0^2}{2}} \quad (3) \quad C_{opt} \omega_0 = 2 \eta_{max} \quad (4)$$

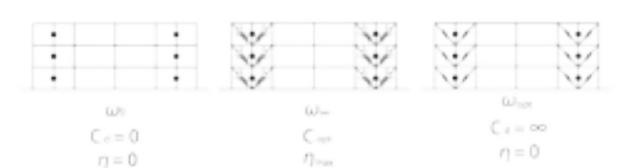


図4 柱梁構造系モデル

## 5 部材概要

本研究に用いられる積層ゴム支承及びオイルダンパーは、既往の研究を基に西村研究室で部材開発されたもので、従来のものとは大きく異なる。それぞれの写真を図3に示す。積層ゴム支承、オイルダンパーともに軸剛性が高く設計されている。そのため、装置設置前後の振動数の変化を大きくさせることができ、高い減衰率を得ることができる。本研究では、実際に開発を行ったそれぞれの部材の値を用いて解析を行った。

## 6 解析結果

4節で述べた方法で固有値解析を行った結果を、表1に示す。解析の結果、減衰装置の減衰係数は36.3tf/cm、建物に付与される減衰付与効果は17.8%となった。本研究で目標としている減衰率10%を、大きく上回る減衰率を得ることができた。

今後は、部材開発を行ったオイルダンパーの性能実験と、細部の実施設計を行っていく。

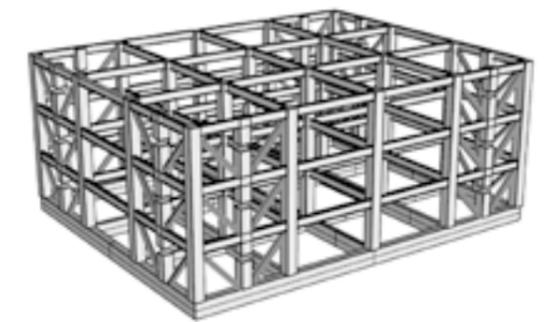


図1 対象建築物の概念図

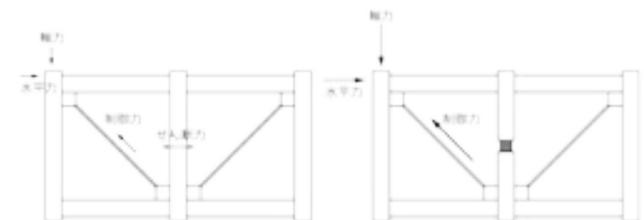


図2 高減衰制震構造の原理図



図3 部材写真

表1 解析結果

軸剛性 (tf/cm)	固有周期 (sec)	固有角振動数 (rad/sec)	減衰定数	減衰係数 (tf/kine)
500	0.325	19.3	0.178	36.3